
提 言

「孤立しがちな子育て中の親への支援」

～親の元気が、子供に夢を・地域に活力を与えることを期待して～

平成 25 年 4 月 23 日
高崎市社会教育委員会議

目 次

はじめに

- 1 テーマ「子育て中の親への支援」設定の理由
- 2 子育て中の親の現状と課題
- 3 検討を進めるに当たっての視点

第1章 子育て（家庭教育）支援の基本的な考え

- 1 子育て支援における家庭教育の重要性
- 2 支援の対象と事業の目的

第2章 本市における子育て（家庭教育）支援の現状と課題

- 1 子育ての役割を担う親の現状と課題
- 2 児童期への移行期における支援の現状と課題
- 3 特別に支援が必要な子を持つ親の現状と課題
- 4 親の地域参加・交流の現状と課題
- 5 支援事業の現状と課題

第3章 地域組織や民間との連携による取組への期待

- 1 地域活動の変化
- 2 支援団体やボランティアの現状と課題

第4章 提 言

はじめに

1 テーマ「子育て中の親への支援」設定の理由

(1) 「子育て中の親への支援」を検討する必要性

今日の社会にはさまざまな課題が山積している。なかでも、少子高齢化の進行は最も大きな課題の一つである。この少子高齢化の進行は全国的な課題であり、同時に、市町村単位の地域においても重要な課題となっている。本市の現状は、全国平均からみれば、その進行はゆるやかである。だからこそ今適切な対応が必要と考える。

なかでも、少子化の進行は子どもが生育する家庭や家庭を取り巻く様々なことが要因となっており、改善には、“子育ての社会的支援、ハード・ソフト面にわたる環境整備等の支援が必要である”（平成10年国の少子化への対応を考える有識者会議）との提言もあり、対応への支援施策が進められてきた。

それが、今日でも新たな課題のように言われていることは、社会の急激な変化に伴い、親（家庭）が抱える課題が一層多様化していることに、適切且つ十分な支援になっていない現状を表している。

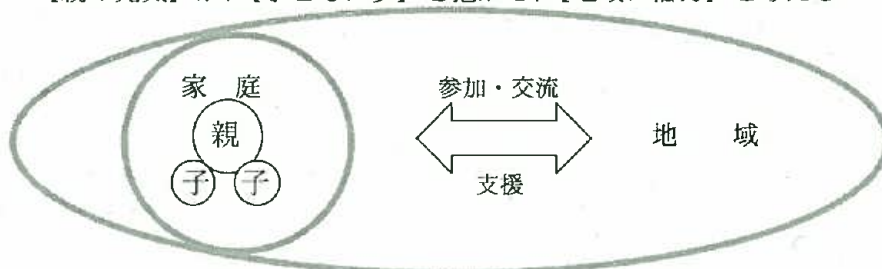
そこで、今回の社会教育委員会議では、社会教育の視点から、子育て中の親が抱える課題（悩み）に適切で、きめ細かなソフト面（学習・活動）での支援方策について検討することとした。

(2) 「親の元気」に期待する効果

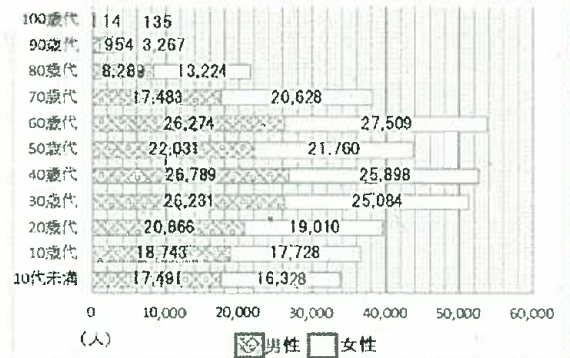
本市における子育て中の親や子どもの現状について、社会教育委員会議全体会において、多くの委員から、「地域に子どもの姿を見かけない」「子どもがいても忙しく、地域の行事に呼びかけても参加しない」「子どもも忙しいが、親も忙しく地域と交流できない」等々、親子とも多忙過ぎる現状を指摘する意見が出された。その一方で、「基本的な生活習慣が身についていない」「躰ができていない」「情報の善悪の判断ができない」等、家庭教育に起因する内容の意見も出された。家庭は子どもも親も一日の疲れを癒やす“やすらぎの場”であり、同時に、家族の絆を強め、共に成長する場でもある。（内閣府の「国民生活に関する世論調査」報告）また、子育ては、親の責任のもとで行われるものだが、親だけでなく、家族（祖父母や兄弟等）の協力、知人・友人など身近な人や地域のさまざまな人との関わりや支援が欠かせないものである。

つまり、未来の大人である子どもたちが自分の将来に夢を抱けるかは、元気な親がいる家庭で家族の絆を強めながら育つことが必要であり、親や子（家庭）は地域の様々な支援を受けて成長し、同時に、親や子（家庭）の元気（力）が地域に活力を与えることを期待したものである。

【親の元気】が、【子どもに夢】を抱かせ、【地域に活力】を与える



高崎市年齢別人口集計(平成24年12月3日現在)



2 子育て中の親の現状と課題

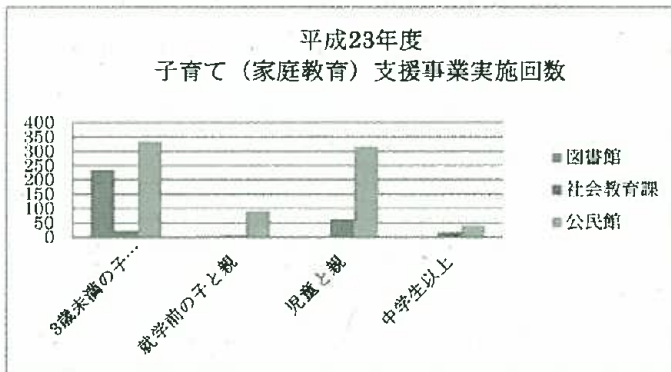
(1) 家族類型にみる現状

本市における世帯数は、平成20年の132,982世帯から、平成23年には147,494世帯と増加しているが、1世帯当たりの人数は2.58人から2.51人と減少している。それを家族類型別状況でみると、全世帯数の58.9%を占めている核家族世帯のうち、「夫婦のみ」と「一人親と子ども」世帯の増加に対して、「夫婦と子ども」世帯は減少（平成12年と平成17年国勢調査の比較）している。この数値は、本市においても核家族世帯の増加と少子化の進行を裏付けるものとなっている。この変化は、祖父母と同居し、子どもの人数も多かった時代での子育てとは異なってきていることをものがたっており、新たな環境のもとで親が子育てしていることを示している。

(2) 地域差の現状

地域差の現状を年代別人口統計でみると、倉淵・榛名の北西地域、新町・吉井の南西地域と市中心部の中央地域は高齢化率が高く（高齢化率24.2～33.2%）“子どもの姿が見えにくい地域”となっている。一方、群馬地域から中川・東部・倉賀野の東南部の地域は若年層の割合が高く（高齢化率18.8～19.9%）“子どもの姿が比較的に見える地域”となっている。（平成23年度高崎市町内別世帯数調査）このことから、高崎市における子育て（家庭教育）支援事業を進めるに当たっては、市全体に一律的な支援事業を実施するのではなく、事業を行う施設からの距離や子どもの多い・少ない等地域の実情に適切に対応した支援事業を行うことが必要である。

(3) 学習支援の現状と課題



本市の平成23年度における学習支援事業は、社会教育課、公民館、図書館の1課2施設だけでも、1,143事業が実施されている。また、他部局でも子ども家庭課等で886事業が実施されている。

支援の対象は、図書館は「3歳未満の子と親」が圧倒的（子ども家庭課も同様）であるが、公民館や社会教育課では「乳幼児から児童までの子と親」を対象に子どもの成長段階で考えられる課題を想定しての学習支援事業をおこなっている。特に“小学校区1公民館”という学習者に身近な施設である地区公民館の果たしている役割は大きいといえる。その中で、小学1年生にみられる“集団不適応”（小1プロブレム）の増加を考えると、子どもの成長が著しい「就学が近い幼児期（4・5歳児）の子と親」に焦点をあてた支援事業が少ないことは検討すべき課題である。

3 検討を進めるに当たっての視点

社会教育委員会議では、子育て中の親の現状や市が行っている子育てに関する学習支援の現状等を踏まえ、次の視点で検討を進めてきた。

- (1) 子育て（家庭教育）支援の対象を“乳幼児（特に幼児）から児童（低学年）までの子どもの親”に視点をあて、その現状と課題をもとに今後の支援のあり方について検討を進めてきた。
- (2) 支援方策の検討にあたっては、親や子どもの実態、親の要望を把握し、地域の特徴も加味し

ながら、実態や要望に応えられる適切な学習支援方策について検討を進めてきた。

- (3) 親が置かれている実態や要望を把握するため、幼稚園・保育園と小学校の関係諸機関に協力を依頼し、「子どもの多い地域」「子どもの少ない地域」「中間的地域」を設定し、それぞれ4幼稚園、4保育所・園、11小学校（低学年）の協力を得てアンケート調査を行った。（対象者数：1,688人）
- (4) 社会教育課を始め教育委員会で実施している支援事業だけでなく、他部局で実施している学習や交流の支援事業も含めて情報収集し、親の実態や要望に十分対応したものになっているか検討してきた。
- (5) 地域における支援では、地域の自治組織や社会教育関係団体、NPOなど民間の活動実態についても情報の収集に努めてきた。

第1章 子育て（家庭教育）支援の基本的な考え

1 子育て支援における家庭教育の重要性

今日、社会の変化とともに家庭を取り巻く環境も大きく変わり、親の価値観も多様化している。特に、「親子のみ家庭」や「一人親家庭」が増加し、昔のような親から子へ受け継がれる子育てができなくなっている。そのため、今の親は子育てで直面する様々な課題を自分（自分達）だけの努力で乗り越えることが求められ、大きな負担となり、悩みとなっている。

悩みを抱えている親への支援は多方面から多岐にわたって進められているが、子どもの生育に大事な教育の始まりは家庭であり、基本的な生活習慣や生活能力、社会的規範意識が培われるのは家庭での教育である。子育ての責任は親にあり、社会や家庭を取り巻く環境がどのように変化しても、夫婦の支えと家族の協力のもとで行われるものである。この家庭における教育の重要性を十分に認識し、親が抱える悩みや期待を受け止め、親と共に“未来の親”となる子どもを育てていくことが教育の立場からの“子育て支援”と考える。

2 支援の対象と事業の目的

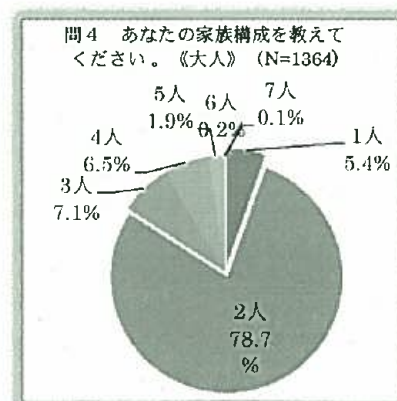
子育て中の親を対象とした学習支援事業は、“子どもへの関わり方”等親の教育力を高める内容の「子育て講座」、 “子どもとのふれあい”等を学ぶ「親子リトミックや読み聞かせ」、 “地域とのふれあいの中で子どもを育てる”に視点をあてた「獅子舞教室」等様々な事業が、「乳幼児とその親」「児童とその親」を対象として実施されている。このように、学習支援の対象は子育ての役割を担っている親である。また、事業の目的は親の時間的、経済的事情に配慮した支援でなく、親の家庭における教育力の向上を目指すものであり、親の成長を期待して行うものである。

第2章 本市における子育て（家庭教育）支援の現状と課題

1 子育ての役割を担う親の現状と課題

(1) 家族形態の状況

近年の家族形態の変化により、祖父母・親・子の三世帯家族が減少し、一人世帯や「夫婦のみ・一人親と子・親と子」の核家族



が増加している。今回の「幼児期から児童期（低学年）を対象とした子育て支援に関する調査」においても、「大人2人と子ども」「大人1人と子ども」の核家族世帯が全体の84.1%を占める結果がでている。一方、子どもの人数は、「1人」が17.1%に対して、「2人」と「3人」で79.4%、「4人」以上も3.5%存在している。このことから、本市においては核家族化が進行しているが、一世帯における子どもの人数は少子化の進行を示す数値にはなっていない。

(2) 悩みの有無と内容

① 悩みの有無・内容<悩みや気がかりの内容>

今回の調査で「悩みの有無」の問には、66.7%の親が「ある」と回答している。その内容は「子どもの躰（関わり方）」「子どもの発育（心理面）」「子どもの発達関係」など“子ども”に関する内容を多くの親があげている。

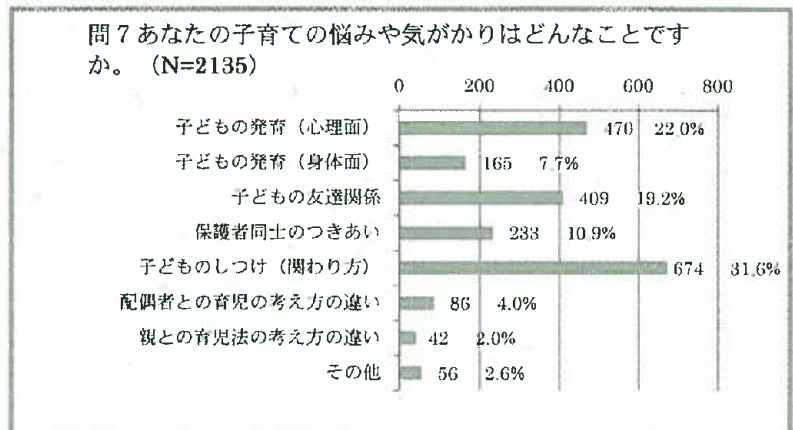
また、配偶者・保護者・親など“大人の間での悩み”もあることがわかる。

一方で、「悩みがない」との回答が33.3%であった。実態が回答のとおり“悩みなし”であればよいが、親の感じ方で“この程度は悩みとまではいかない”と判断した結果であれば、悩みの潜在化と受け止めることが必要である。

② 家族形態や生活実態の違いによる悩み

核家族では家族以外から支援を受けることが難しく、親、特に育児を主に担っている母親のストレスの増大が考えられる。核家族で育児に専念している親は一日を通して育児に関わるため、自分自身の時間をつくる余裕がなく、働く親以上のストレスを抱えていると考えられる。

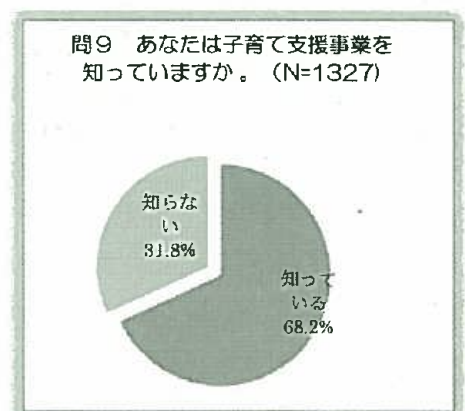
三世帯家族では同居している祖父母から日々の支援が受けられ、親の悩みは少ないものの、育児方法の違いや互いの理解が不十分な場合には“助け”以上の精神的負担があることを、数値的には少ないが今回の調査結果は示している。



(3) 支援事業の親への周知

① 支援事業の周知度

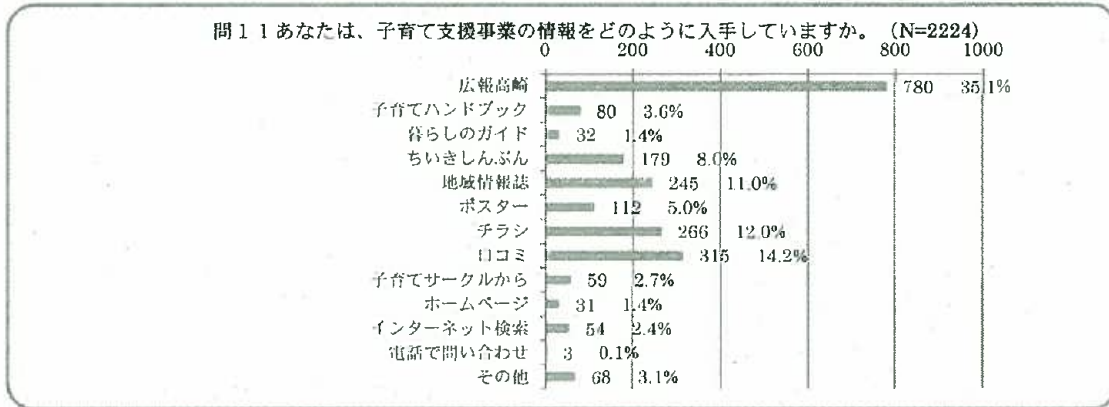
今回の調査で「支援事業を知っている」の回答が68.2%と7割に近い親に周知されていることがわかる。しかし、「支援事業を知らない」の回答が31.8%と3割を超えており、「情報がわかりにくい」との記述回答もある。社会教育課が市内全小中学校で就学時健康診断日を活用した全保護者対象の「就学時子育て講座」を実施しているにもかかわらず、「支援事業を知らない」と回答している親がいる事実からも、情報提供の更なる改善が必要である。



② 情報の入手方法

情報の入手方法は、「市の広報」が圧倒的（35.1%）であり、次に「口コミ」（14.2%）「チラシ」（12%）と続いている。一方、「ホームページ・インターネット・電話」等での入手は合わせても3.9%と少ない。この結果から、親は“紙面で”、“届けられる”情報を頼りにしていることがわかる。

約3割を超える「支援事業を知らない」親や「情報が伝わってこない」「情報がわかりにくい」と情報提供の改善を求めている親の気持ちに添った提供をするには、伝える情報をよりわかりやすい内容に改善し、幼稚園・保育園・学校や各施設の協力を得て、確実に提供する必要がある。



(4) 支援事業への参加

① 参加が多い事業の特徴

「読み聞かせ」「子育てサロンやサークル」「フェスティバルやお祭り」、親子が一緒の「体験教室」への参加が多い。その共通点は、一つに“いつでも気軽に自分の生活時間に合わせて参加できる”“定期的に年間通して行われている”“実施場所までが近い”など、親の参加の条件に合っている事業である。二つには“普段あまりできないことの体験”で“親子が一緒に参加できる”事業である。一方、参加が少ないのが「親育ちのための講演会」である。少ない理由には“会場までの距離や時間”“時期や時間が合わない”ことが考えられる。しかし、この事業は親育ちを目的とする重要な役割を担っており、参加者向上のための改善が望まれる。また、「支援事業を知っている」が「参加したことがない」回答が約12%と予想以上に多かったことから、親の参加意欲を高める一層の工夫が求められる。

② 事業参加への条件

事業の情報を確実に届けるとともに、希望している親が参加できるよう配慮することは更に重要である。親の参加条件で多かったのが、「開催時間や曜日」「場所までの時間」「参加費の有無」の三つである。

「開催時間と曜日」では、平日ならば「午前」、土・日ならば「どちらでも」の回答が多かった。そのなかで、少数だが仕事等の関係で「夜間」を希望する親もいることを軽視することなく、事業計画の検討が必要である。

「場所までの時間」では、「車で30分以内（15分以内も含めて）」が82.2%と最も多い。30分の距離なら市内中心部の会場でも可能な範囲となる。参加の有無は事業内容が大きく影響すると考えられる。また、「徒歩・自転車」希望（10.7%）もいることから、身近な場所での実施にも配慮する必要がある。

2 児童期への移行期における支援の現状と課題

(1) 幼児期から児童期に移行する時期の重要性

① 幼児期までの子どもへの関わり

子どもが乳幼児期での親の関心は、家庭教育の基本といえる「子どもの健康の管理」であり、「基本的な生活習慣」や「社会的規範」を身につけさせる躰（関わり方）であることが今回の調査結果からも表れている。

「健康管理」は重要であり、第一子の場合親にとっては“手探り”状態であるが、専門の医療関係者の指導や保育関係者の援助（祖父母の援助も含めて）により、悩み・心配事であっても、重症でない限り親がストレスを抱える程には至っていないと考えられる。

「基本的な生活習慣」や「社会的規範（躰）」については、幼児期の始まりから“反抗期”が始まり親にとっての悩みの種となるが、“どの程度まで”が許容の範囲かは親の判断で十分であり、子どもも親が頼りであるため、親は自分の主導で子どもを育てることができると考えられる。ただ「関わり方」に不安を持つ親が多いことは、相談や学習の要望と捉えて、その対応としての支援事業を実施することは必要である。

② 児童期への移行に伴う変化

小学校入学から子どもの生活は大きく変化する。幼稚園や保育園では比較的自由的な“遊び”が中心の生活から、集団の一員として一定時間集中する“学習や活動”中心の生活に変わるようになる。そのため、中学校入学時のいわゆる“中1ギャップ”と同じように、変化に適切に対応できない“小1プロブレム”と指摘される子どもが増加している。

一方、親もPTAや育成会を通して、学校での親の交流や“地域デビュー”ともいえる地域の人との交流が始まるなど、子どもの成長を喜びつつも、幼児期とは違う新たな悩みを抱えることが考えられる。

③ この時期における悩みの特徴

社会教育課が実施した「子育て講座に参加した親へのアンケート」や今回の調査「幼稚園・保育園と学校との比較」でも、子ども2人以上の場合には顕著な数値が見られなかったが、一人っ子家庭での比較では「悩みがある」回答が入学後8.2%も上昇する結果が表れている。特に一人っ子の場合、母親としての経験が浅く、自分で判断ができないことが多いため、精神的孤立感を大きくしていると考えられる。

このように、子どもが「幼児期」から「児童期」へと変わる時期に行う、親への学習支援は重要である。この時期に“よりよい親子関係”が築かれれば、「児童期後期」や「生徒期」における様々なトラブルにも親が適切に対応できると考える。このことが、今回の提言作成にあたって、実態把握のための調査対象を『幼児期から児童期初期の子を持つ親』とした理由である。

この時期の親への学習支援を、現在行われているPTA主催の研修会や社会教育課主催の「就学時子育て講座」だけでなく、幼稚園・保育園や学校と協働して“子どもの育ちを考える学習会”等を継続して実施することが望まれる。

3 特別に支援が必要な子を持つ親の現状と課題

(1) 支援を求める相談の現状

本市では、“集団生活に馴染めない”“感情をコントロールするのが苦手”“学習内容を上手に把握できない”等特別に支援が必要な幼児・児童を対象に、子どもへの指導や親への支援を行う目的でこども発達支援センターが平成 23 年度に設置された。センターの平成 23 年度実績報告によれば、年間の個別相談件数は電話・来所を合わせて延べ 2, 331 件に上っている。センターに相談に訪れた人も延べ 1, 000 人を超えている現状がある。子どもの年齢別では、3 歳未満を始め年少（3 歳）から小学校低学年（8 歳）に集中している。特に、来年入学を控えた年長（5 歳）時に「就学」「学校との関係」の相談が増えている。

このことから、特別に支援が必要な子への指導や親への支援は就学前から継続的に行うことが必要である。

(2) 増加の要因と特別な支援の必要性

以前は、知的や肢体障害のある子とその親への支援が叫ばれてきたが、近年は、“学習障害 (LD)” “広汎性発達障害（高機能自閉症・アスペルガー症候群）” “注意欠陥多動性障害 (ADHD)” など障害の程度が軽く、障害がわかりにくいいため見過ごされてきた子どもたちの存在が指摘され、医学的治療や療育とともに、教育的支援の必要性が指摘されてきた。

しかし、子どもに障害が見られるようになる幼児期では、見分け・判断がつきにくく、認めたがらない親もいる。このような親は、同世代の親との交流に積極的でなく、我が子の将来への不安もあり、精神的に孤立している状況もあると考えられる。今後、子どもの障害に対する理解、親の心情の理解などを内容とする学習機会を全ての親を対象に、こども発達支援センターや学校、PTA や親の会と連携して進めることが必要である。

(3) 言葉の壁を持つ外国人の親への支援

現在は少数である市内に在住する外国人が、社会の動向をみると本市でも増加することが予測できる。外国人が生活するうえでの大きな課題は“言葉の壁”である。そのため、特別に支援が必要な子と親と同様に支援のあり方を検討する必要がある。

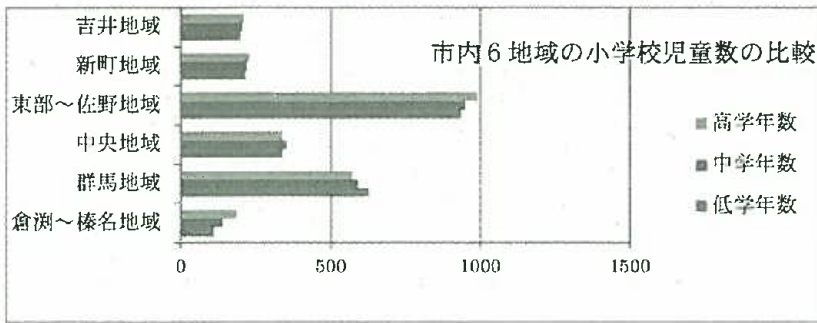
4 親の地域参加・交流の現状と課題

(1) 地域における子どもの現状

① 地域別にみる状況

市全域で小学校に通う児童数は 21, 138 人である。（平成 23 年 9 月末現在）市全体の世帯数が 152, 133 軒（平成 24 年 1 月 31 日現在）であることを考えると、一軒当たり約 0.14 人となり、10 軒で一人の数値である。地域自治組織の最小単位である隣保班の編制が約 10 軒単位であることを考えると、同世代の親子が隣近所にはほとんどいないことを示している。

また、地域別の状況を小学校児童在籍者数（平成 24 年 9 月現在）でみると、倉淵・榛名の北西部地域、新町から吉井の南西部地域では、年度毎の減少数は緩やかであるが、子どもが少なく、“子どもの姿が見えにくい”地域となっている。旧市街地の中央地域は高齢化率は高いものの、子どもの数では中間的な状況となっている。一方、群馬から中川・東部・佐野・倉賀野までの中心市街地から東南の地域では比較的“子どもの姿が見える”地域となっている。



吉井地域 (岩平、吉井西、多胡、入野小)
 新町地域 (第一、第二小)
 東部佐野地域 (東部、塚沢、佐野、中居小)
 中央地域 (中央、南、東、北小)
 群馬地域 (金古南、国府、堤ヶ岡、桜山小)
 倉淵榛名地域 (倉淵、上室田、中室田、下室田小)

② 地域差の特徴

この子どもの数の地域差は、子どもを持つ若い親がマンション・アパート等借りやすく、中心部にも近い生活上便利な周辺地域に居住することが多いこと、また、新築可能な造成区域も周辺地域であることなどが要因と考えられる。そのため、“子どもの姿が見える”地域は市中心部から少し離れたドーナツ型に位置する地域、特に東南部に集中している。一方“子どもの姿が見えにくい”地域は中心部からは距離のある北西部の地域となっている。

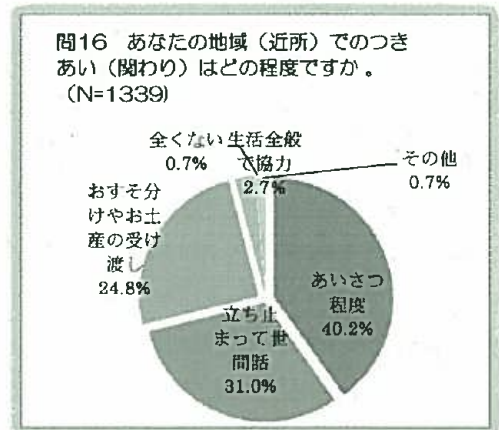
この地域差の特徴を家族形態でみると、“子どもの姿が見える”地域は核家族が多く、地域との馴染みが薄いのが、“子どもの姿が見えにくい”地域は比較的三世帯家族が多く、地域とのふれ合いもあると考えられる。

(2) 親の地域参加と交流の実態

親が子育てをするうえで地域との関係をどのように考えているかを今回の調査結果から見ると『必要性』については、98.3%の親が必要と回答している。

『関わり』でも、挨拶だけでなく、「生活全般で協力」など、意識とつながりの深さを表す結果となっている。

このことは、子どもが多い、少ないという地域差に関係なく、子育て中の親は、地域の同世代の親や地域の様々な人との交流を願っているといえる。



(3) 地域における支援の現状

現在、公民館・保育園・児童館や福祉センター等で、主に乳幼児の子と親の交流の場として、「子育てサロン」が設置され、自主的な親子サークルの活動が行われている。この「子育てサロン」は年間通して開催されており、親子にとっては生活時間に合わせて参加できるため希望の多い事業となっている。その一方で、身近な場所に設置されていない親にとっては気軽に参加できない現状もみられる。そのための支援として、地区公民館では「乳幼児の子と親」「児童や児童の親」を対象とした支援事業が実施されている。また、平日の午後(放課後)に、児童向けの自主学習・活動の場を提供する事業も行われている。

地域の自治組織も区長会を中心に、祭りなどの地域行事や環境美化活動等を校区子ども会育成会とも連携して取り組んでいる。また、親の交流の場の提供は、主任児童委員や母子保健推進員を中心に、福祉施設やコミュニティーセンターでも行われている。

このことから、今後、地域における子育て(家庭教育)支援を充実させるには、地域の福祉施

設や自治組織などと連携した取組を一層広げていくことが必要といえる。

地域の「地域スポーツ振興」「伝統文化保存・継承」等の民間団体も、幼児期の子どもへも積極的に参加を呼びかけ、親子と地域との交流を支援している。地域のさまざまな活動への親子参加は、母親の地域デビューへの援助になるだけでなく、父親の子育て参加を促すきっかけともなる意義のあることである。

(4) 地域に愛着を持つ子どもを育てる支援

小・中学生の親を対象とした「ふるさとを思い浮かべる年代」の調査では、「小学校時代」との回答が最も多かった結果が報告されている。その思い出の内容は、「自然」であり「育った家の近所の人との交流」であった。このことから、幼児期から児童期の年代で“地域の人との交流”や“地域の行事”に参加することは、子育て中の親子が地域に貢献するとともに地域から支援を受けることにもつながるものである。

なかでも、地域の伝統文化の保存・継承活動に子どもが参加することは、将来にわたって地域を誇りに思う意識を育てることが期待できる取組である。現在、伝統文化の保存・継承に尽力されている団体が、今の時代に合わせた継承のあり方を探り始め、子どもの育成を基本にした地域づくりを目的としているなど、この取組を地域における子育て（家庭教育）支援につながる方策として捉えることも必要と考える。

5 支援事業の現状と課題

(1) 支援事業の現状

現在、行われている支援事業を、今回の調査でみると、教育委員会や関係部局の累計で2,000近い事業が単独、或いは連携して行われている。社会教育課では、子育て情報紙「すくいく」の配布を始め、子どもの発達段階に合わせた子育て講座を公民館、児童館、保健センター、福祉会館（福祉センター）や学校を会場として100近い講座を実施している。図書館でも主に3歳未満の子と親を対象として“読み聞かせ”を月1回程度の割合で年間通して行われている。特に地域に密着した存在である地区公民館が支援事業に果たしている役割は大きく、「乳幼児と親」対象の“歌・ダンス・読み聞かせ”など多彩な内容の講座や「児童と親」対象の様々な“体験教室”“伝統文化教室”等が300講座以上行われている。

福祉部局でも、児童館や福祉施設で乳幼児の親子を対象に“親子遊び”や“読み聞かせ”など625事業、保育施設等で子育てサロン（35カ所）や相談事業を行っている。

(2) 支援事業の現状からみる今後の課題

支援事業は事業に参加する親の立場や要望に添ったものであることが大切である。特に、親が参加しやすい条件であるか検討して実施する必要がある。調査回答では、参加の条件として、内容は「親子一緒に体験」、曜日や時間は「土・日や祭日、平日の午前中」、会場までの距離は「車で30分以内か、できれば自転車か徒歩の範囲」そして、参加の形は「年間を通して定期的に行われるものに、生活スタイルに合わせて自由参加」であった。

この親の要望に応えるための検討課題として次のことを指摘したい。

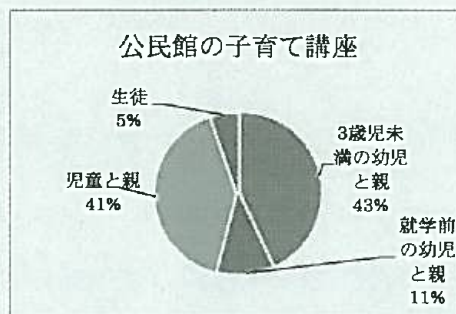
・参加対象の設定

「乳幼児（3歳未満）と親」「児童と親」の講座は多いが、「就学前の幼児と親」の講座は少な

い。対象を絞り過ぎると兄弟（姉妹）のいる親の参加が難しいなどの問題はありますが、講座の内容を工夫することで実施できると考える。

・実施時期と開催場所の工夫

公民館の講座は各公民館独自で計画し、内容も類似しているため、実施時期が比較的同じになることも多い。また、地区公民館は校区エリア内の住民を対象にしているため、他地区からの参加が難しい現状がある。しかし、居住地域の公民館に参加できない親を考慮し、複数の公民館を一つのエリアと設定し、実施時期をずらすなど参加を可能にする工夫が必要である。



・講座内容の充実

講座内容は参加対象に合わせて計画されているが、親の要望は「子どもに関すること」「親自身に関すること」「相談に関すること」など様々である。このような複数の要望にも対応できる事業の検討が必要である。

(3) 支援事業への新たな取り組み

三世代家族の子育て中の親は、核家族の親と比較して祖父母から様々な援助が期待でき恵まれた環境にあると思われるが、「悩みの内容」の回答には「育児法の相違」などで悩んでいる親もいることがわかる。地域では高齢者が子どもの「安心・安全」に向けた活動に参加する動きが高まっている。この高齢者の援助に、親からは感謝の言葉とともに、子どもの行動への理解を求める声も上がっている。子育て支援に関する講座等の対象は「子と親」であったが、今後「祖父母など高齢者」を対象とした講座の実施が必要と考える。

今回の調査では、本市の一世帯当たりの子どもの人数は2～3人である。それでも少子化が進行している要因は、子どもを持つ親と同年代に未婚・子どもがいない成人が多いことである。現在子育て中の親から“子育ての楽しさ、感動”をメッセージとして情報発信することは少子化対策のうえからも重要と考える。同時に、支援事業を進めている職員が情報を共有化し、わかりやすい内容で、確実に届けることも大事である。

第3章 地域組織や民間との連携による取組への期待

1 地域活動の変化

今まで、地域とは支援をする側と支援を受ける側との意識が強かったが、その形に変化がみられるようになってきた。その要因は支援を受ける立場の住民が主体的に行動に移さなければ課題解決に至らないということが明らかになってきたためである。子育て（家庭教育）支援についても同様で、支援を受ける親の状況は様々であり、個々の要望に十分応えきるには限界があり、全ての課題（悩み）の解決には至らないということである。親同士が交流しあい、自主的に活動を進めることで、様々な問題を解決する手がかりを見いだせることが先進的な取組事例で示されるようになってきた。（参考事例：文部科学省「家庭教育支援のための連携事例集」）

地域の課題を地域住民の自主的活動で解決する地域コミュニティを育てる動きと同様に、公民館等で学習した親たちが自主的なグループ・サークルをつくり、地域の施設を拠点として活動するようになった。この親たちの自主的活動を援助し、複数のグループ・サークルをつなぎ合わ

せるコーディネーターの役割を公民館主事等の社会教育の推進者に期待するものである。

2 支援団体やボランティアの現状と課題

公民館の子育て講座に、親が参加しやすいよう「託児場所」が設置されるようになった。そこで託児をしているのが託児ボランティアである。市内で登録されている子育て支援ボランティア団体が24団体あるが、その中で託児を目的として活動しているのは2団体である。今後、子育て（家庭教育）支援事業の実施には「託児」の配慮が求められるが、登録外で活動している団体を含めても主催者の要請に対応できる状況にないことがわかる。よって、「託児ボランティア」の養成・確保は急務である。

また、子育て支援を目的に活動しているNPO団体は27団体あり、スポーツ・文化・自然体験や交流・相談活動を行っている。今後は、さまざまな分野で継続して支援活動に取り組んでいるNPO等民間団体を連携パートナーとして位置づけ、支援事業の充実・発展を目指すことも重要である。地域で活動している人々の力を結集し、子育て中の親への支援の輪を広げ、“子どもは地域の宝”の意識が地域全体のものとなることを期待する。

第4章 提言

孤立しがちな子育て中の親への支援に向けて、以下の提言をする

- (1) 親の生活スタイルに合わせ、いつでも気軽に参加できる学習・交流機会の提供
 - ・子育てをしている親の精神的不安を解消し、子育ての楽しさを実感できる学習機会と交流の場を、いつでも気軽に参加できる身近な生活圏に確保する。
- (2) 就学前後の子を持つ親への学習機会の提供
 - ・子どもの成長の変化が大きい就学前後の親を対象として、子どもの理解を深め、親の悩みを解消するための学習機会を学校や幼稚園・保育園と連携して内容・回数ともに充実する。
- (3) 特別に支援が必要な子と親への理解を深め、親の交流を支援する事業の実施
 - ・発達障害や集団生活に適應できない子どもの理解と親への支援を、関係機関・学校・PTAと連携し、子どもの成長段階に合わせて、組織的・系統的に取り組めるよう配慮する。
- (4) 親への支援に大きな役割を果たす、祖父母や高齢者を対象とした子育て支援講座の実施
 - ・親の子育てを支えている祖父母や今後大きな役割が期待できる地域の高齢者を対象として新たな事業の展開を図る。
- (5) 地域の自治組織やNPO等民間諸団体と連携した文化的行事や交流活動の実施
 - ・地域との交流の必要を感じているが、日常的な交流機会が少ない親への支援として、気軽に参加できる文化的行事や世代間交流が図れる事業を実施する。

- (6) 必要な情報を、わかりやすく、確実に届ける提供方法の改善
- ・全ての親へ十分に周知するため、子育てを支援する関係機関・施設が互いに連携し、必要な情報を、わかりやすく、確実に届ける情報提供に努める。
- (7) 子育て中の親から未婚の成人へ、子育ての喜びと感動のメッセージを伝えられる事業の実施
- ・未婚の成人への、子育ての喜びと感動メッセージの発信や大学等と連携し、親子サークルと学生が交流できる事業を実施する。

<参考資料>

- 1) 国立社会保障・人口問題研究所、日本の将来推計人口（平成 18 年 12 月推計）
- 2) 国立社会保障・人口問題研究所、日本の世帯数の将来推計（平成 20 年 3 月推計）
- 3) 文部科学省生涯学習局 平成 24 年度「家庭教育支援事業」の概要
- 4) 平成 23 年度高崎市住民基本台帳
- 5) 平成 23 年度高崎市町内別世帯数調査
- 6) 平成 12 年度・平成 17 年度・国勢調査
- 7) 平成 23 年度群馬県年齢別人口調査
- 8) 平成 23 年度家庭教育講座アンケート調査
- 9) 平成 23 年度高崎市子ども発達支援センター概要
- 10) 文部科学省「家庭教育支援のための連携事例集」
- 11) ISSP 国際比較調査「家庭と男女の役割」（平成 24 年 11 月）

<添付資料>

- 平成 23・24 年度高崎市社会教育委員会議開催経過
- 高崎市の子育て（家庭教育）支援に関する調査 概要
 - ・全体の概要
 - ・子ども 1 人世帯の状況
 - ・アンケート用紙
- 家庭教育支援事業の概要
- 平成 23 年度高崎市社会教育委員名簿
- 平成 24 年度高崎市社会教育委員名簿

添付資料

- 平成 23・24 年度高崎市社会教育委員会議開催経過
- 高崎市の子育て（家庭教育）支援に関する調査 概要
 - ・全体の概要
 - ・子ども 1 人世帯の状況
 - ・アンケート用紙
- 家庭教育支援事業の概要
- 平成 23 年度高崎市社会教育委員名簿
- 平成 24 年度高崎市社会教育委員名簿

平成23・24年度 高崎市社会教育委員会議開催経過

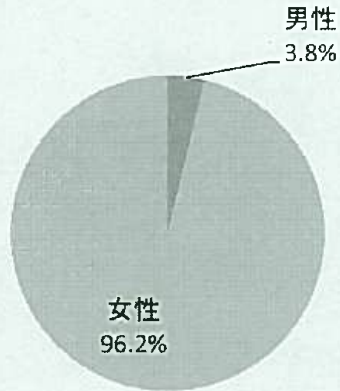
月 日	会 議 名	主な内容	
平成 23年	7月6日 第1回全体会	①委嘱状交付 ②議長・副議長の選出 ③社会教育委員について ④任期中の活動について意見交換 ⑤今後のスケジュールについて	
	9月16日 第2回全体会	①任期中の活動について (第1回全体会の概要と意見交換) ②今後のスケジュールについて	
	11月17日 第3回全体会	①任期中の活動について (第2回全体会の概要と意見交換) ②小委員会の設置について ③今後のスケジュールについて	
平成 24年	2月22日 第1回小委員会	①全体会の概要について ②提言に向けての課題抽出と整理 ③今後の進め方とスケジュールについて	
	3月21日 第4回全体会	①第1回小委員会の報告と意見交換 ②今後のスケジュールについて ③社会教育関係団体登録について	
	5月15日 第2回小委員会	①家庭教育支援事業調査の結果について ②提言に向けての意見交換 ③今後のスケジュールについて	
	7月11日	第5回全体会	①議長及び副議長の確認 ②今までの会議の経過報告 ③小委員会から昨年度の活動報告について ④意見交換 ⑤今後のスケジュールについて
		第3回小委員会	①高崎市の子育て(家庭教育)支援アンケートについて ②今後のスケジュールについて
	9月18日 第4回小委員会	①子育て(家庭教育)支援アンケートの結果について ②提言に向けての意見交換 ③今後のスケジュールについて	
	11月15日 第5回小委員会	①子育て(家庭教育)支援アンケート集計結果について (追加分) ②提言の骨子(次第)について ③提言の文章作成について ④今後のスケジュールについて	
	12月18日 第6回小委員会	①提言の文章作成について ②今後のスケジュールについて	

平成23・24年度 高崎市社会教育委員会議開催経過

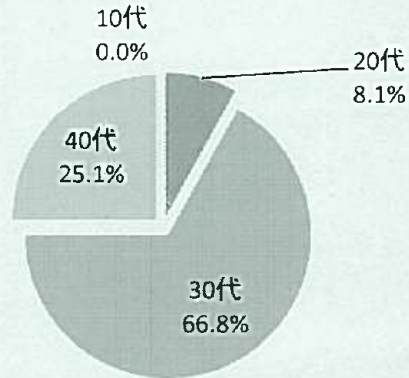
月 日	会 議 名	主な内容
平成 25年	1月22日	第7回小委員会 ①提言の文章作成について ②今後のスケジュールについて
	2月18日	第8回小委員会 ①提言の文章作成について ②今後のスケジュールについて
	3月11日	第9回小委員会 ①提言書最終案について ②今後のスケジュールについて
	3月18日	第6回全体会 ①H23・24 高崎市社会教育委員会議の経過報告 ②提言「孤立しがちな子育て中の親への支援」(案)について ③今後のスケジュールについて ④高崎市社会教育関係団体の登録について

高崎市子育て(家庭教育)支援に関する調査 (全体集計)

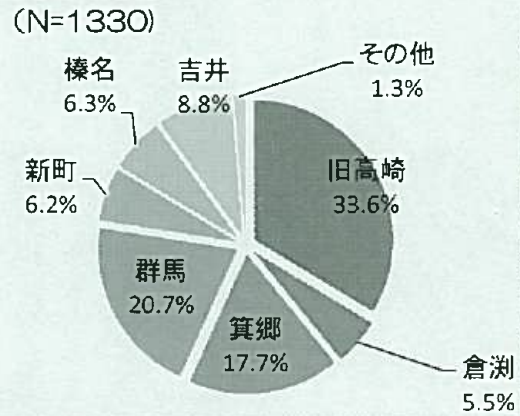
問1 あなたの性別を教えてください。(N=1369)



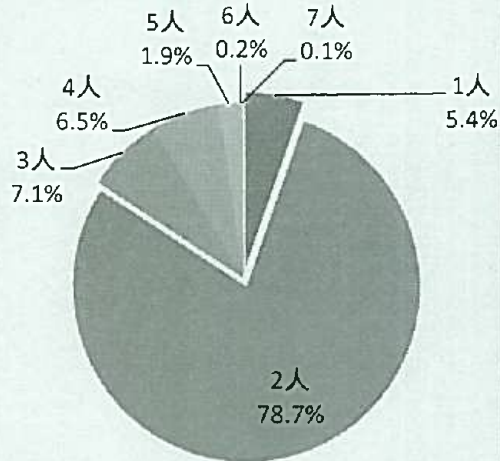
問2 あなたの年齢を教えてください。(N=1369)



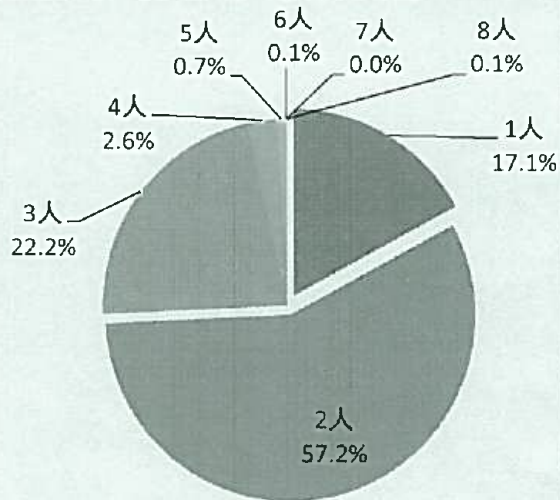
問3 あなたのお住まいの地域を教えてください。(N=1330)



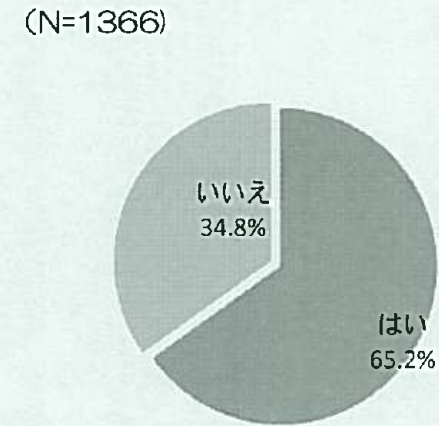
問4 あなたの家族構成を教えてください。《大人》(N=1364)



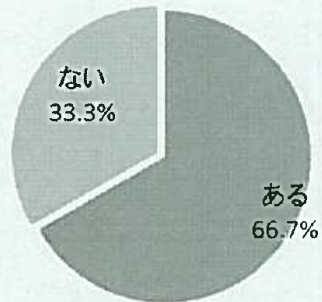
問4 あなたの家族構成を教えてください。《子ども》(N=1360)



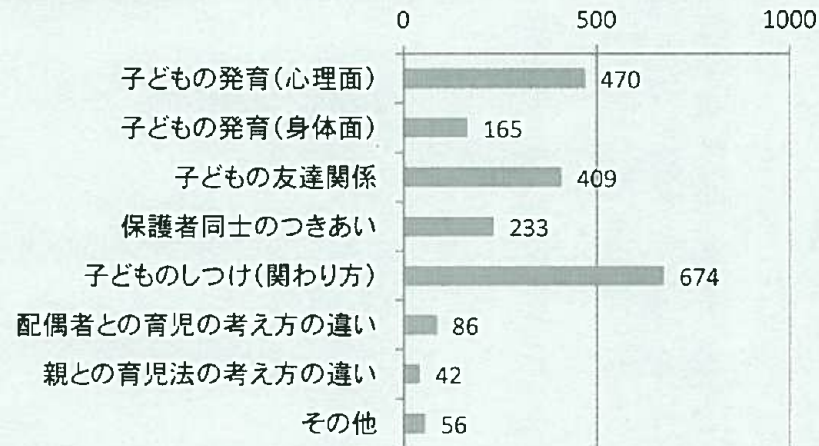
問5 あなたはお仕事をお持ちですか。(N=1366)



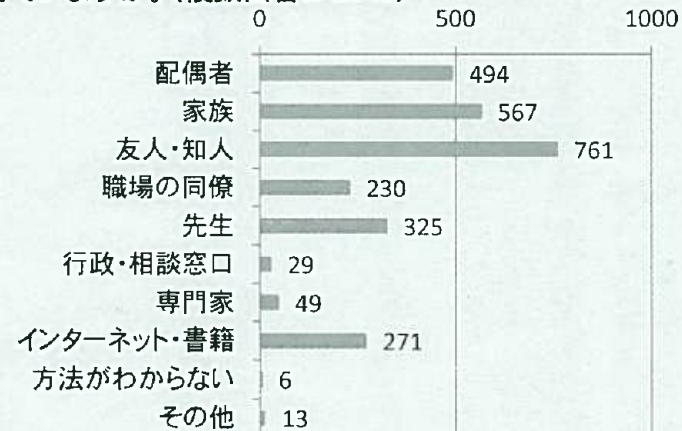
問6 あなたは子育ての悩みや気がかりがありますか。
(N=1358)



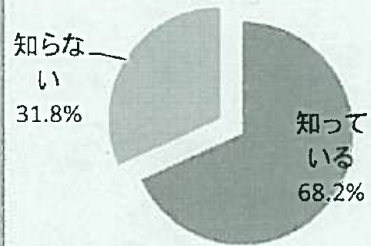
問7 あなたの子育ての悩みや気がかりはどんなことですか。
(複数回答N=2135)



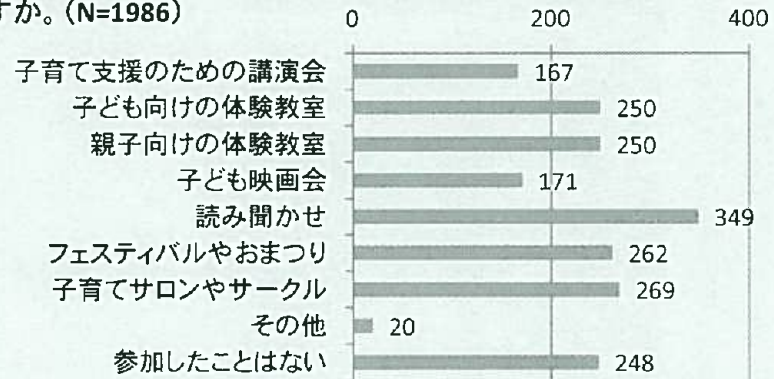
問8 あなたは、子育ての悩みや気がかりを解決するためにどこから情報を得ていますか。(複数回答N=2746)



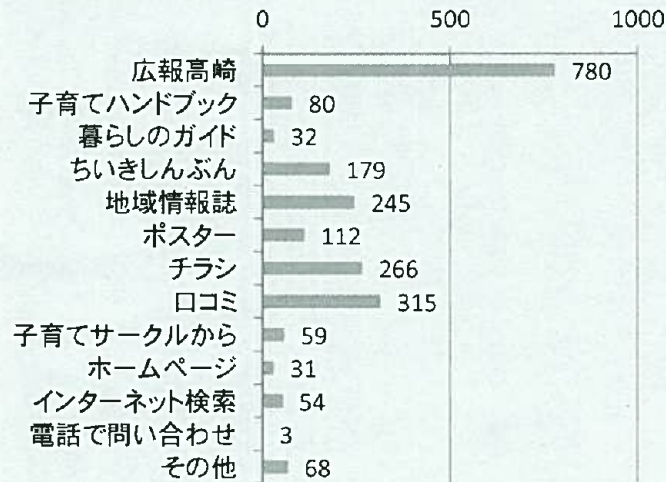
問9 あなたは子育て支援事業
を知っていますか。
(N=1327)



問10あなたは、どのような子育て支援事業に参加したことが
ありますか。(N=1986)



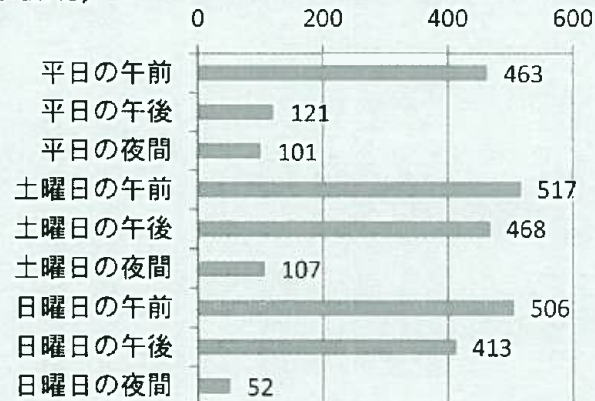
問11あなたは、子育て支援事業の情報をどのように入手していますか。(複数回答N=2224)



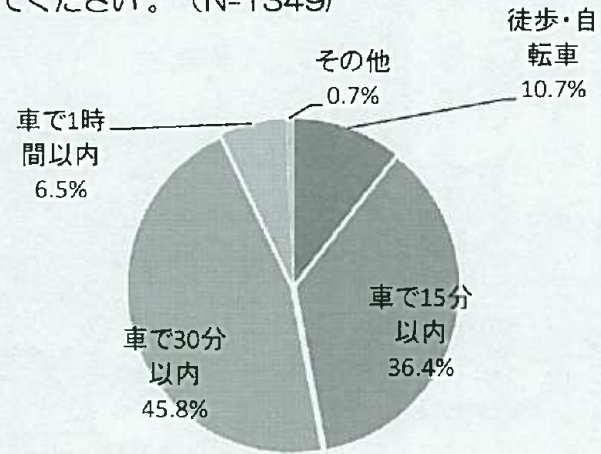
問12得た情報を元に、参加するためにあなたが重要視することはどんなことですか。(複数回答N=2093)



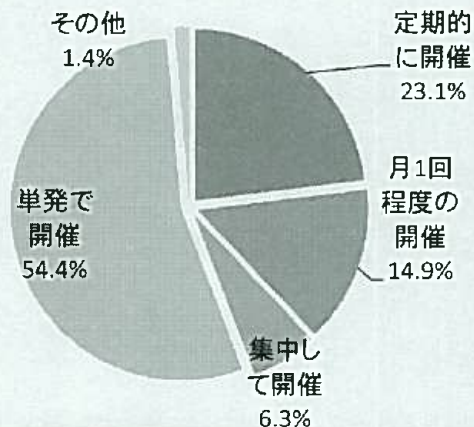
問13あなたが参加しやすい時間帯と曜日を教えてください。(複数回答N=2748)



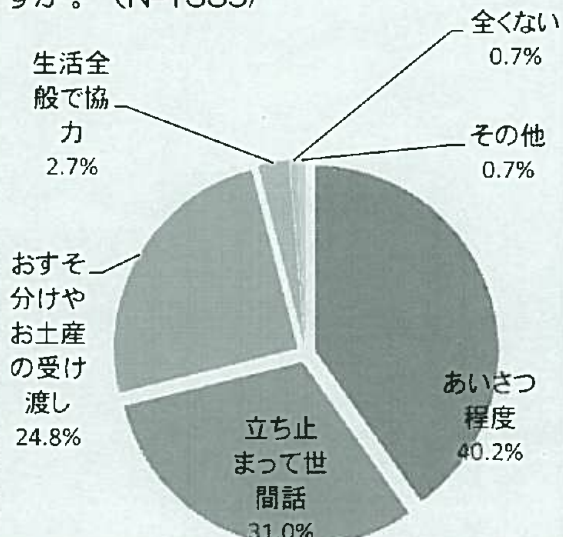
問14あなたが参加できる距離を教えてください。(N=1349)



問15 あなたが最も参加しやすい事業形態を教えてください。
(N=1326)



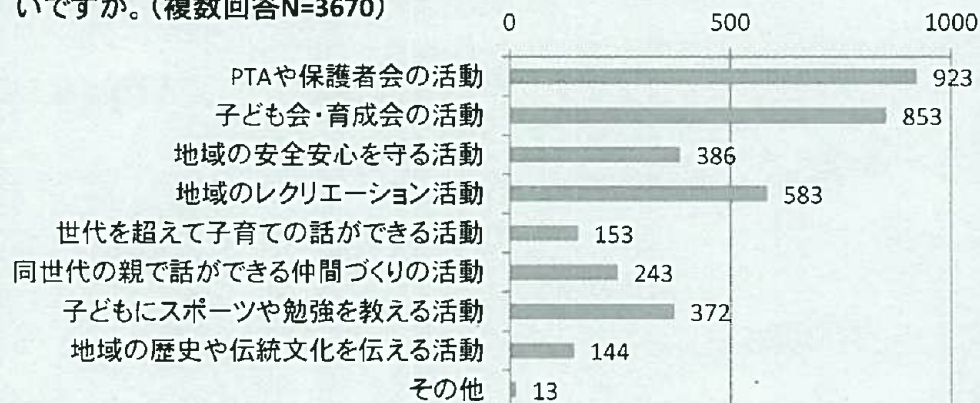
問16 あなたの地域（近所）でのつきあい（関わり）はどの程度ですか。
(N=1339)



問17 あなたは子育てするうえで地域（近所）のつきあい（関わり）は必要だと思いますか。
(N=1333)

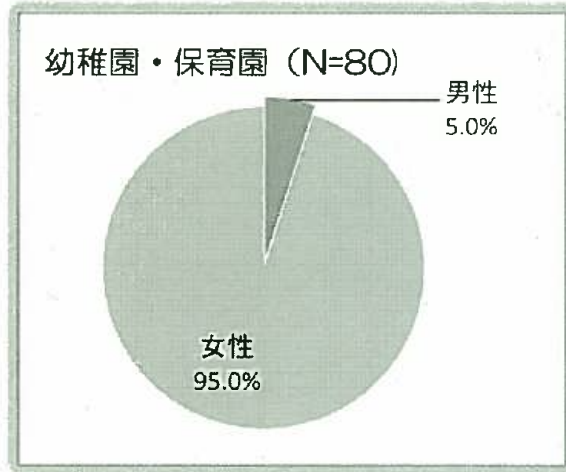


問18 あなたはどのような活動に参加していますか。または参加したいですか。(複数回答N=3670)

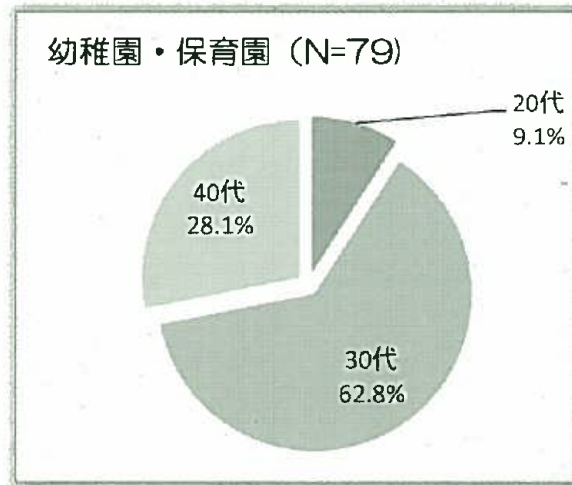


子ども一人世帯比較表

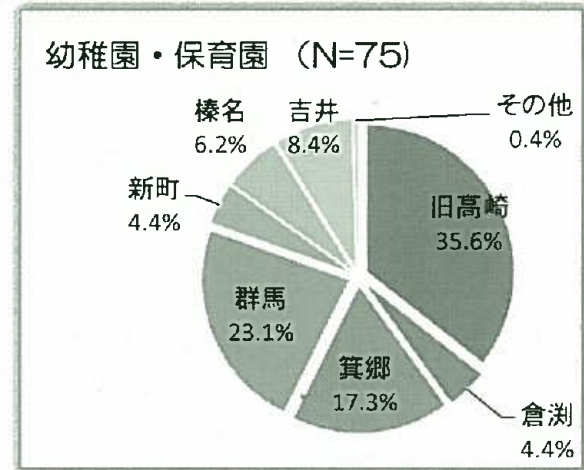
問1 あなたの性別を教えてください。



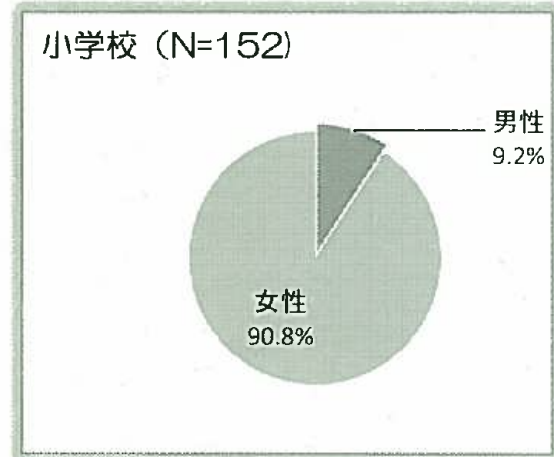
問2 あなたの年齢を教えてください。



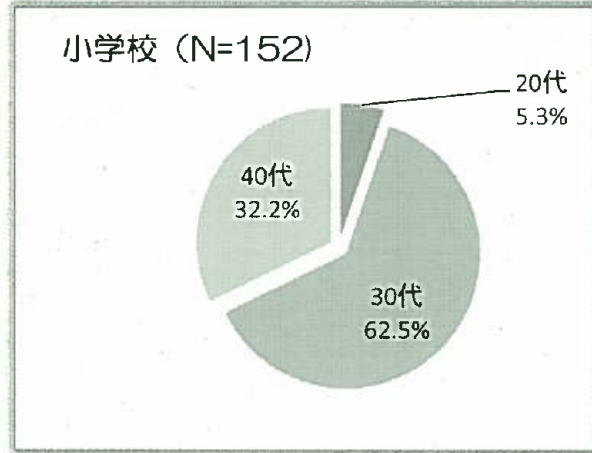
問3 あなたのお住まいの地域を教えてください。



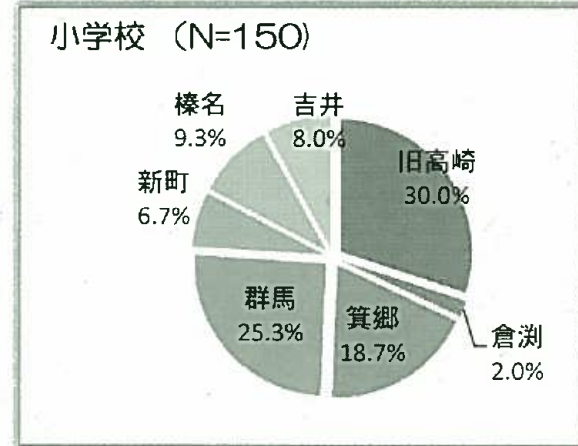
小学校 (N=152)



小学校 (N=152)

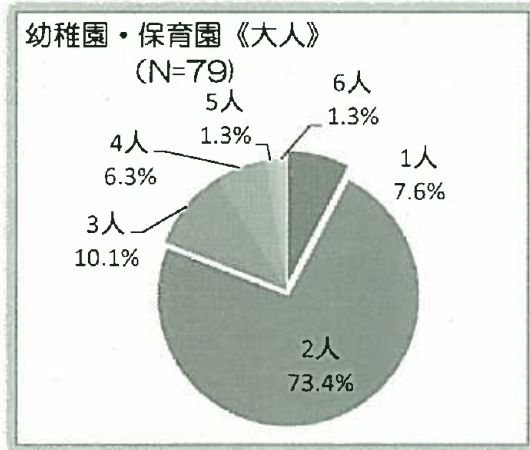


小学校 (N=150)

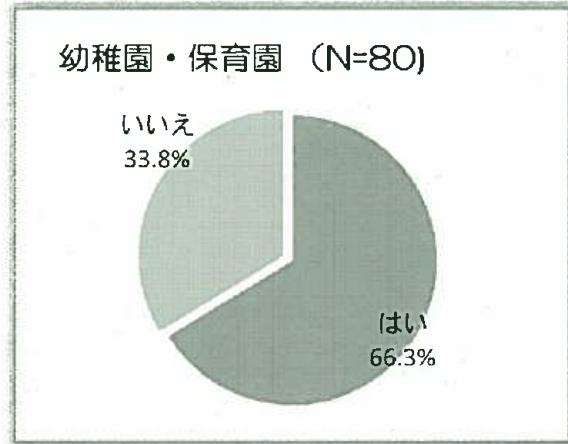


子ども一人世帯比較表

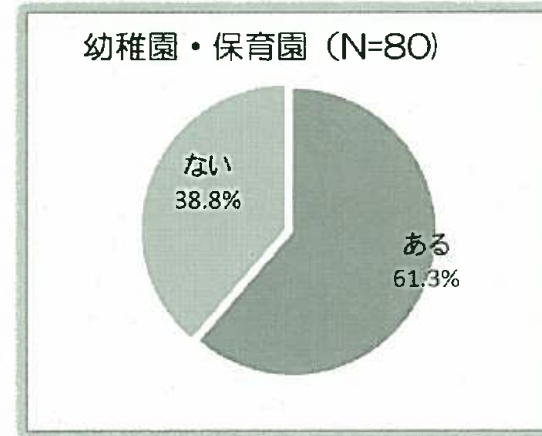
問4 あなたの家族構成を教えてください。



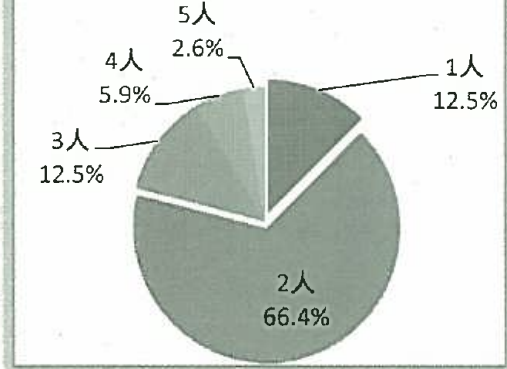
問5 あなたはお仕事をお持ちですか。



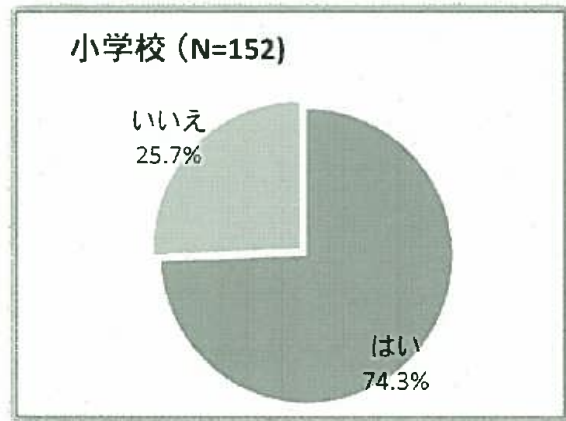
問6 あなたは子育ての悩みや気がかりがありますか。



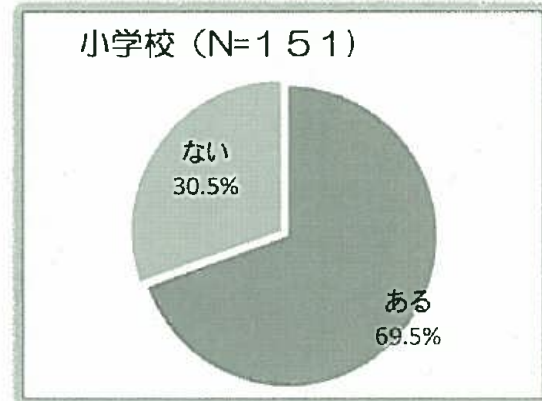
小学校《大人》 (N=152)



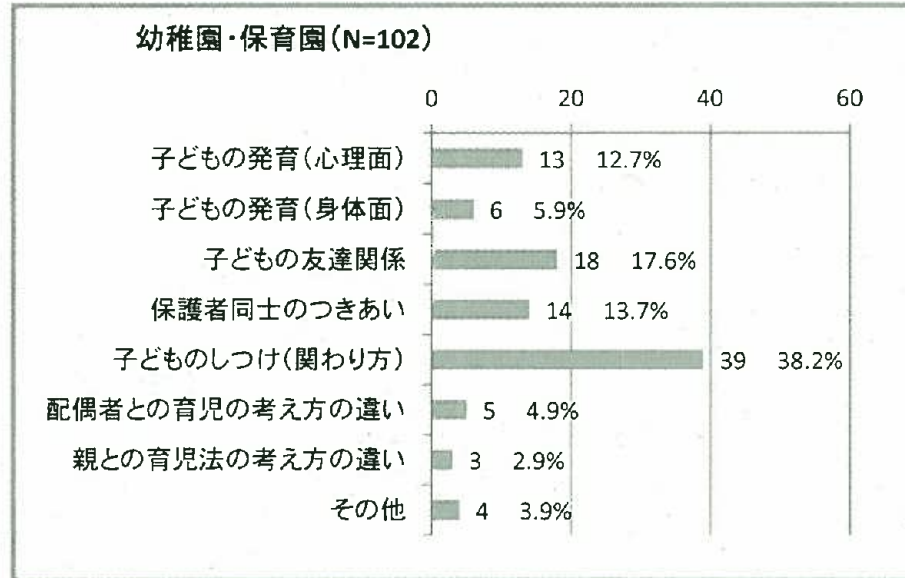
小学校 (N=152)



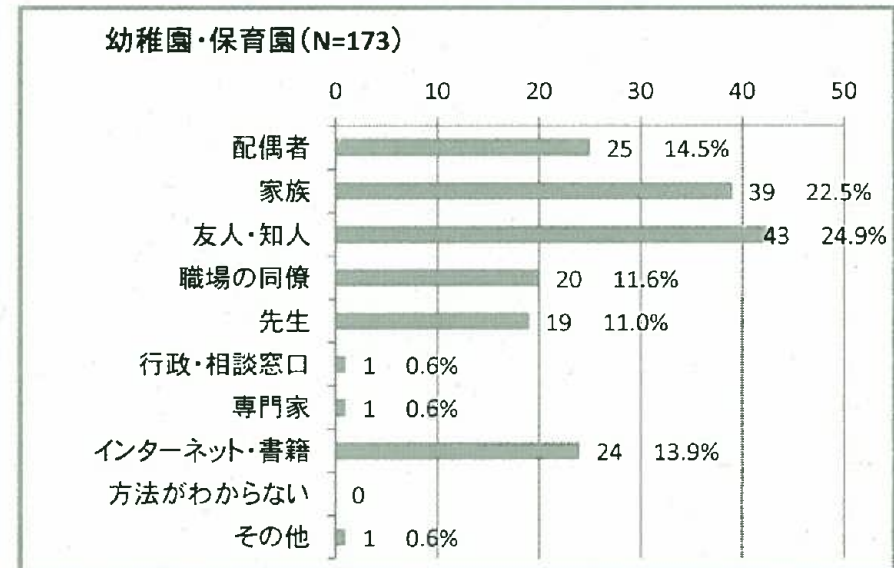
小学校 (N=151)



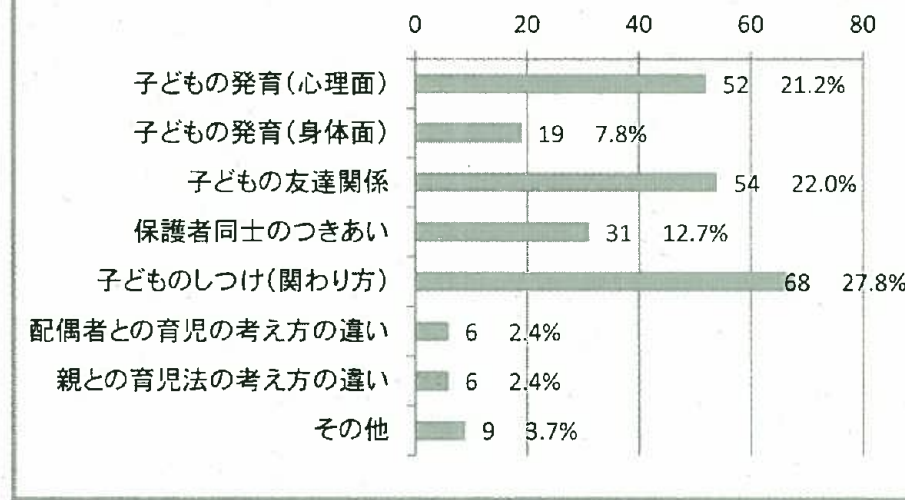
問7 あなたの子育ての悩みや気がかりはどんなことですか。



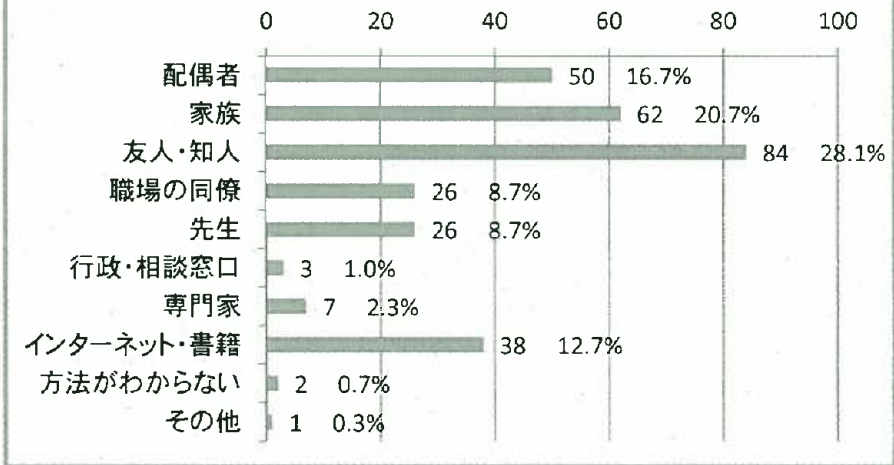
問8 あなたは、子育ての悩みや気がかりを解決するためにどこから情報を得ていますか。



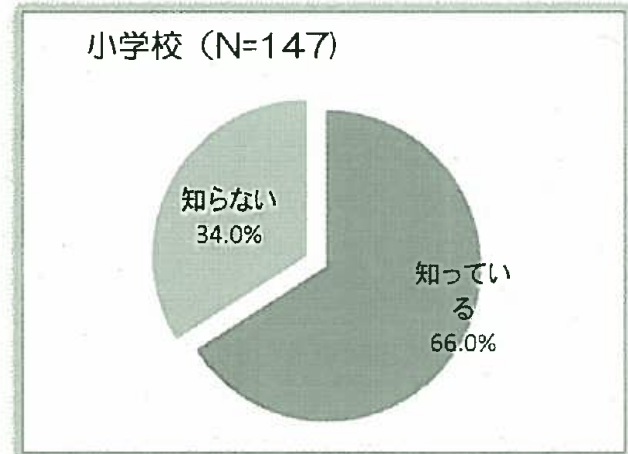
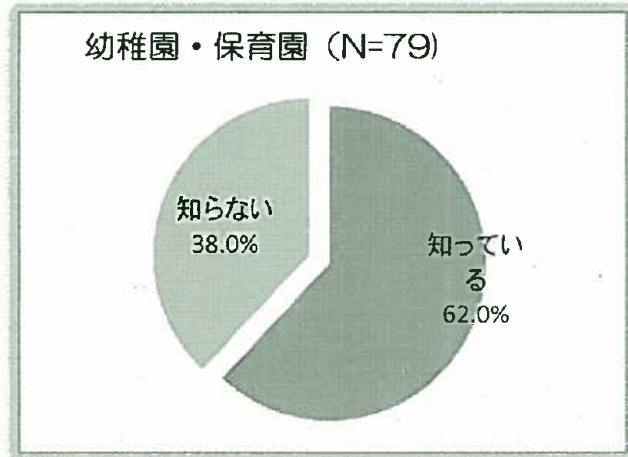
小学校(N=245)



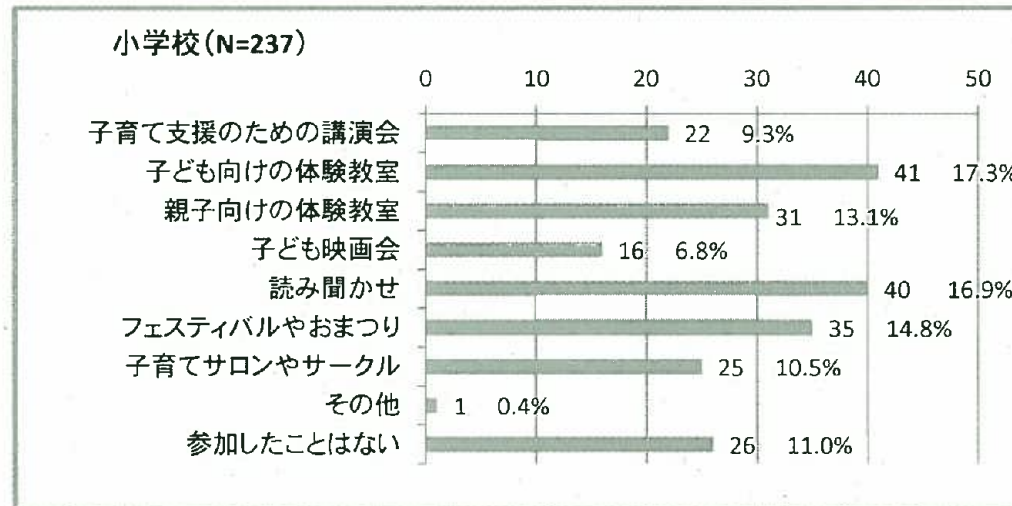
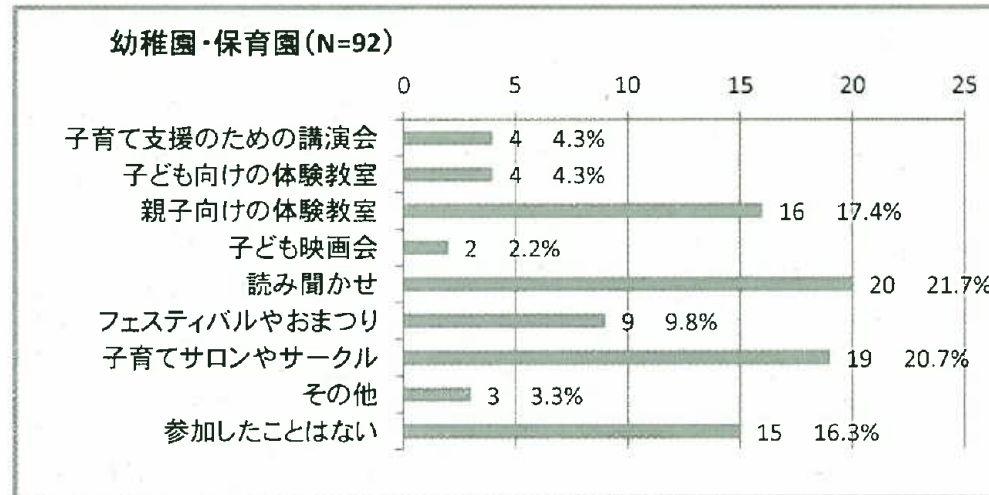
小学校(N=299)



問9 あなたは子育て支援事業を知っていますか。



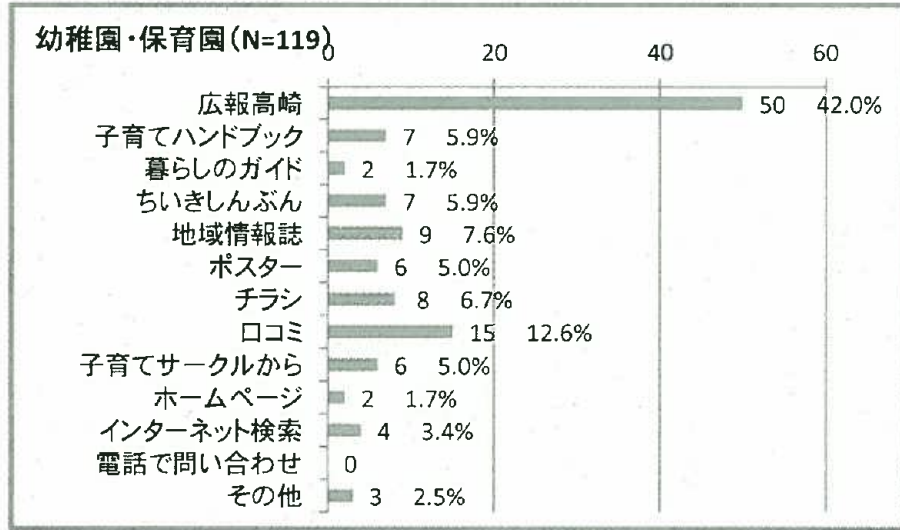
問10 あなたは、どのような子育て支援事業に参加したことがありますか。



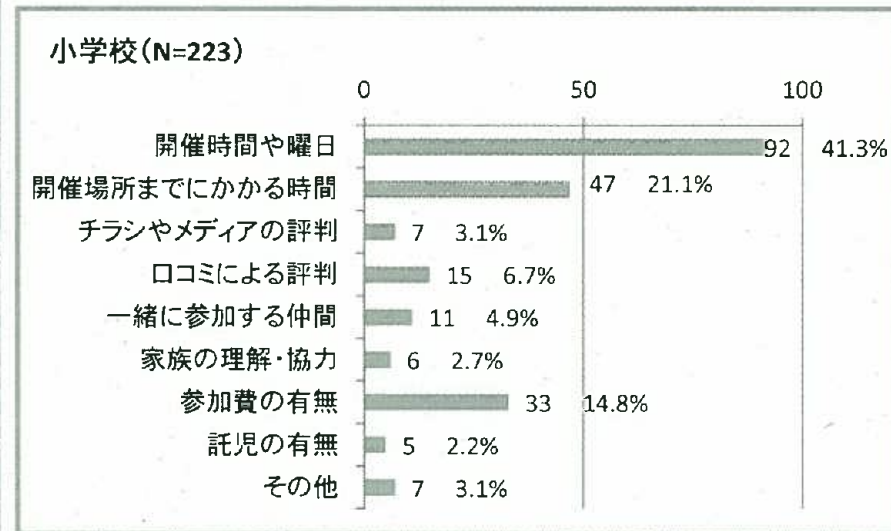
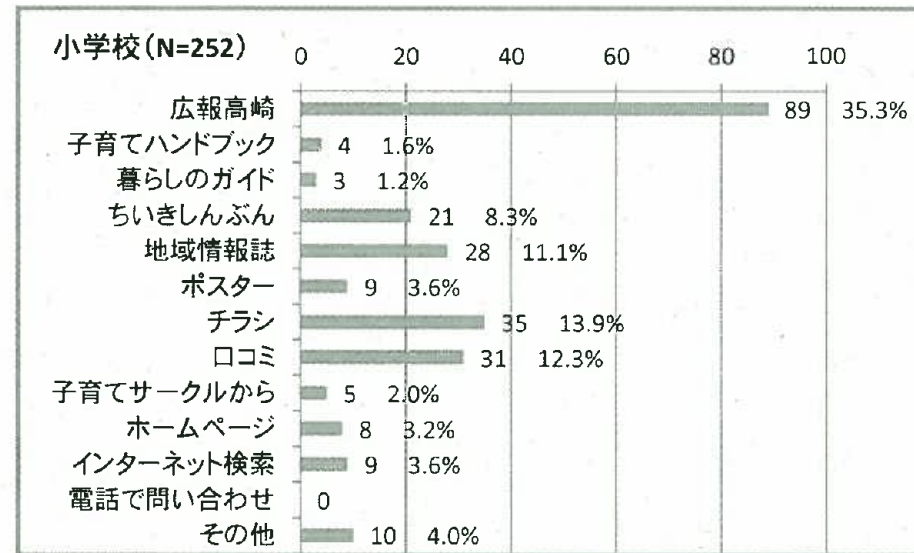
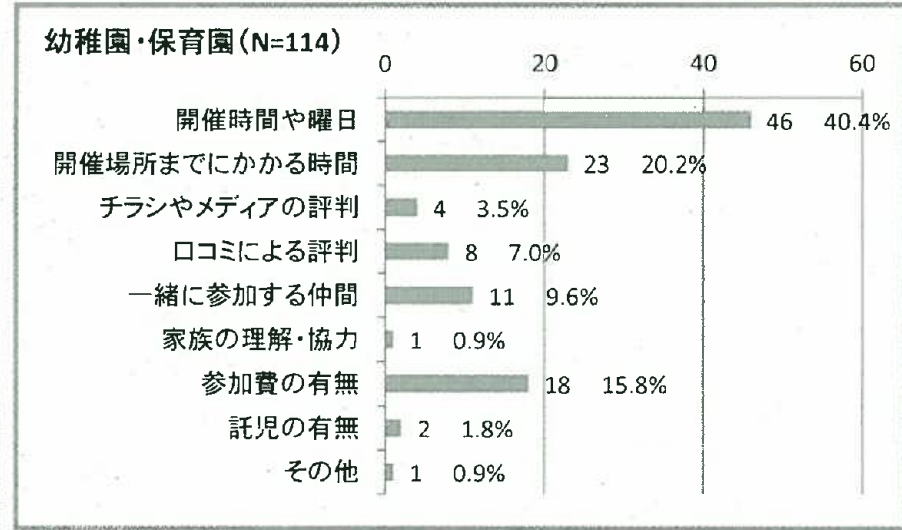
*ただし複数回答のグラフは、小数点以下第2位を四捨五入したため、回答率の合計が100%にならない場合があります。

子ども一人世帯比較表

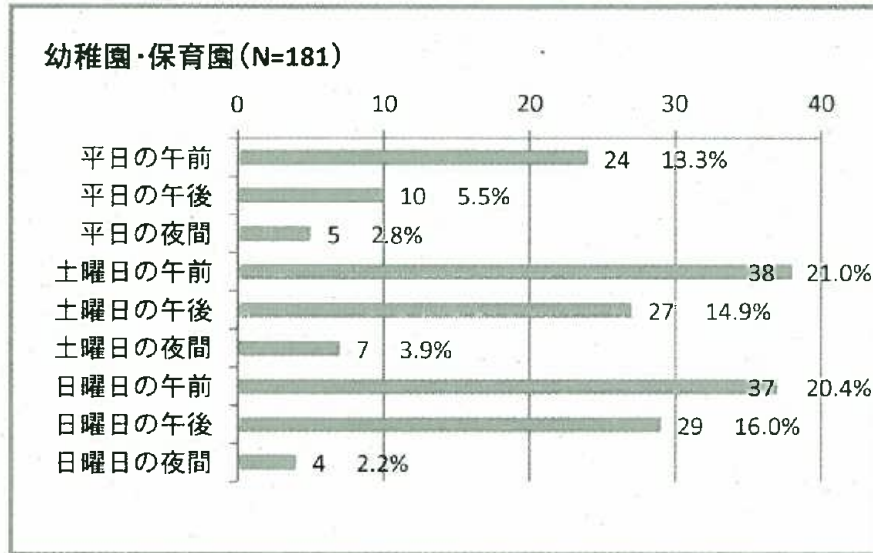
問11 あなたは、子育て支援事業の情報をどのように入手していますか。



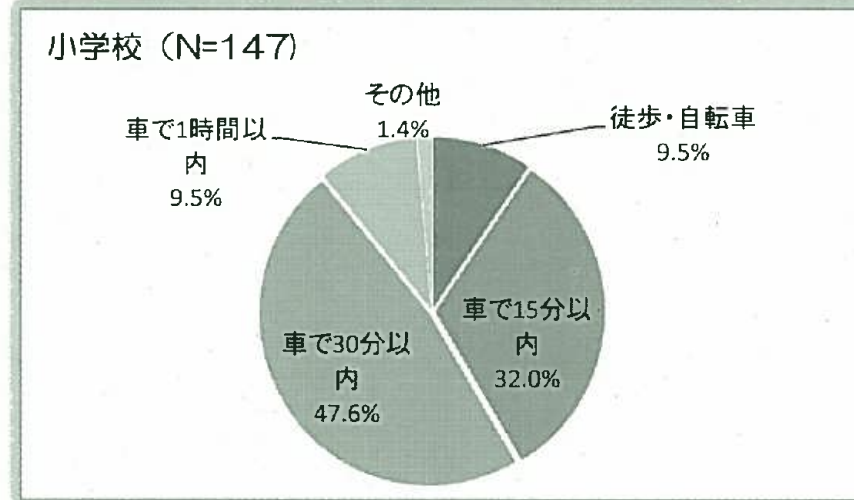
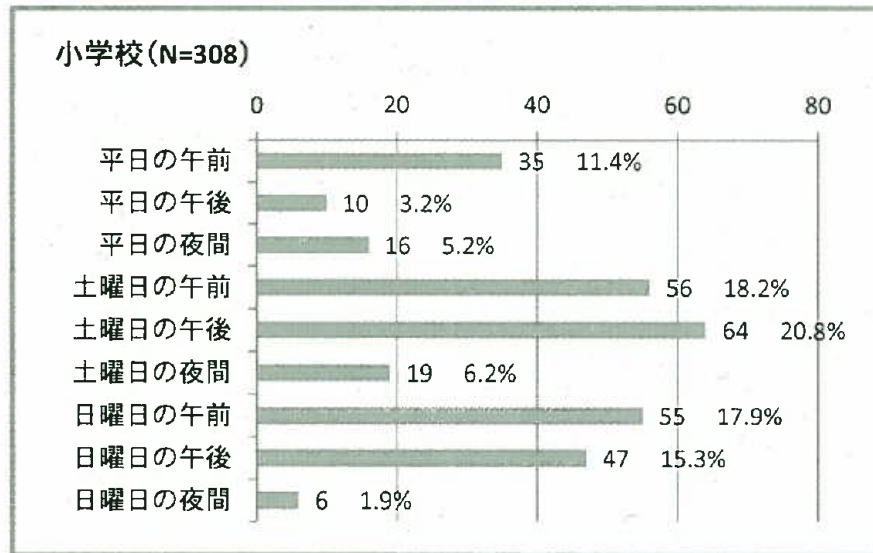
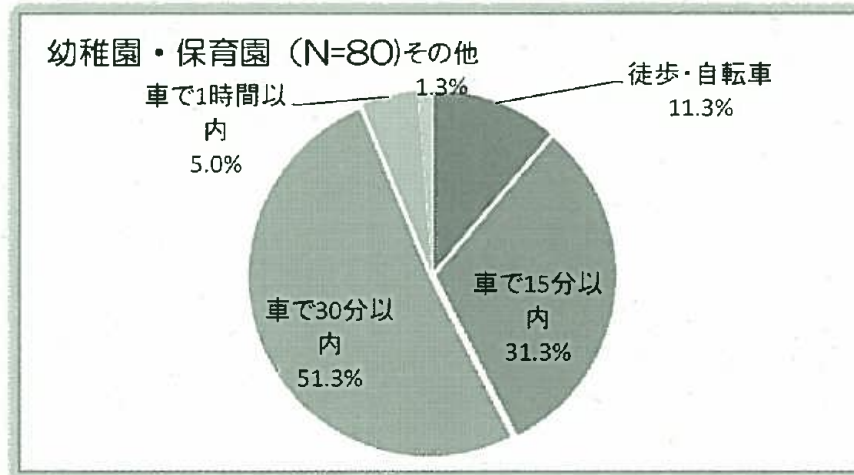
問12 得た情報を元に、参加するためにあなたが重要視することはどんなことですか。



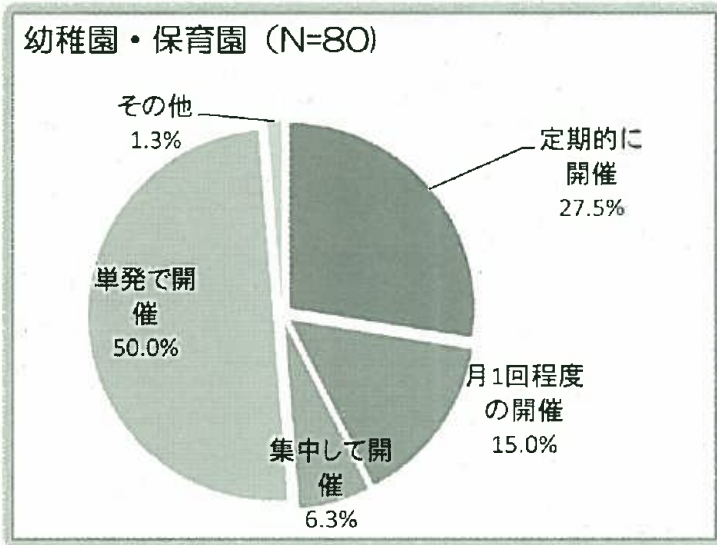
問13 あなたが参加しやすい時間帯と曜日を教えてください。



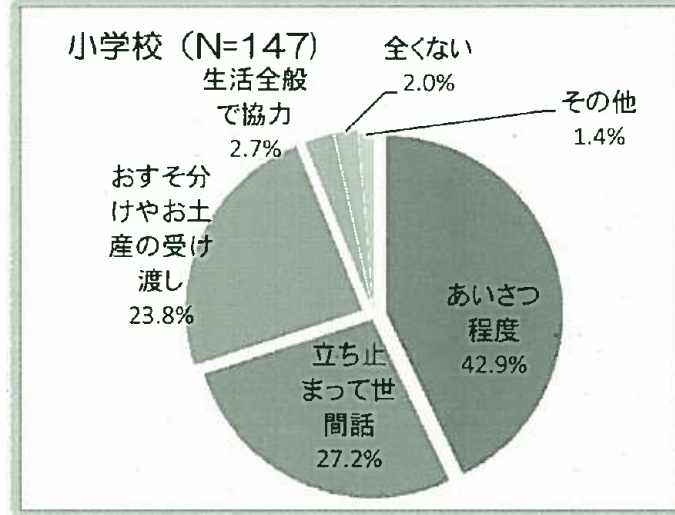
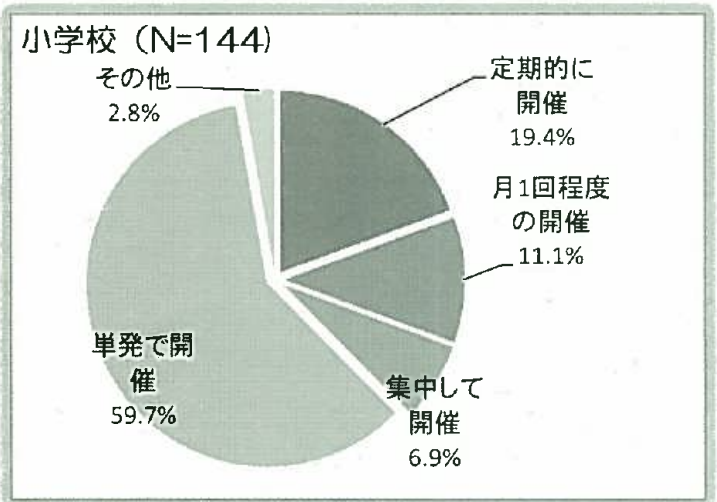
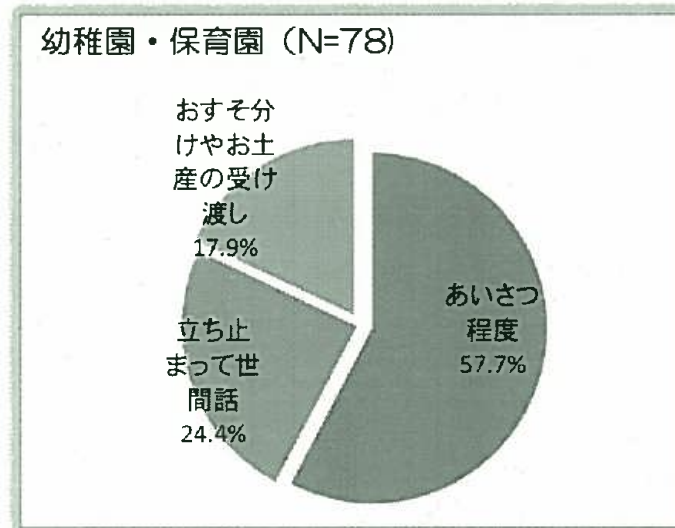
問14 あなたが参加できる距離を教えてください。



問15 あなたが最も参加しやすい事業形態を教えてください。



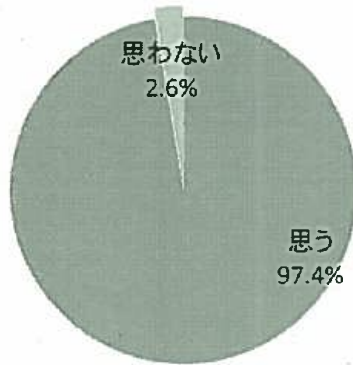
問16 あなたの地域(近所)でのつきあい(関わり)はどの程度ですか。



子ども一人世帯比較表

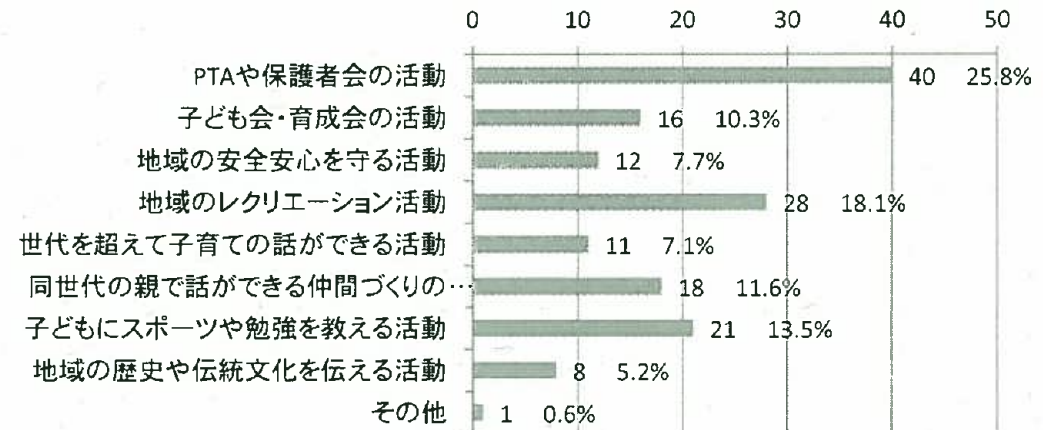
問17 あなたは子育てするうえで地域(近所)の
つきあい(関わり)は必要だと思いますか。

幼稚園・保育園 (N=76)

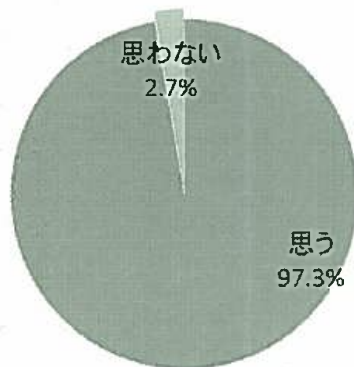


問18 あなたはどのような活動に参加していますか。
または参加したいですか。

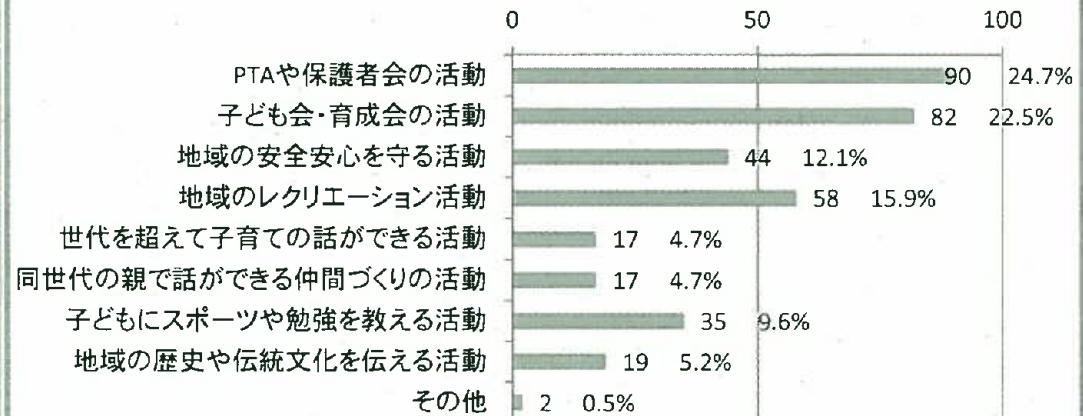
幼稚園・保育園(N=155)



小学校 (N=147)



小学校(N=364)



高崎市の子育て(家庭教育)支援に関する調査

私たち高崎市社会教育委員会議では、平成 23、24 年の 2 年間にわたり「子育て中の親への多様な支援について～親の元気が子どもの元気～」に関する調査・研究を進めています。

このアンケートは、子育て中の皆様のご意見・ご要望を教えてくださいたくために行うものです。

本市の子育て(家庭教育)支援を考えるための資料にのみ活用させていただき、個人情報などの取り扱いは、細心の注意を払いますので、ご協力をよろしくお願いします。

問合せ先:高崎市役所社会教育課(電話:027-321-1295)

【問 1】あなたの性別を教えてください。

1. 男性 2. 女性

【問 2】あなたの年齢を教えてください。

1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代以上

【問 3】あなたのお住まいの地域を教えてください。(わかる方は小学校区も)

1. 旧高崎地域 (小学校区)	2. 倉渕地域
3. 箕郷地域 (小学校区)	4. 群馬地域 (小学校区)
5. 新町地域 (小学校区)	6. 榛名地域 (小学校区)
7. 吉井地域 (小学校区)	8. その他

【問 4】あなたの家族構成を教えてください。

大人 () 人 、 子ども () 人

子どもの内訳は、

未就園児 () 人 幼稚園児 () 人 保育園児 () 人

小学生 () 人 中学生 () 人 その他 () 人

【問 5】あなたはお仕事をお持ちですか。(常勤、臨時、パートの別なく)

1. はい 2. いいえ

【問 6】あなたは日頃、子育てについて悩みや気がかりがありますか。

1. ある 2. ない ⇒【問 9】へ

●あると答えた方に伺います。

【問7】それはどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 子どもの発育(心理面)	2. 子どもの発育(身体面)
3. 子どもの友達関係	4. 保護者同士のつきあい
5. 子どものしつけ(関わり方)	6. 配偶者との育児の考え方の違い
7. 親との育児法の考え方の違い	8. その他()

【問8】あなたは日頃、子育ての悩みや気がかりを解決するために、どこ(誰)から情報を得ていますか。
(あてはまるものすべてに○)

1 配偶者	2. (親・兄弟姉妹などの)家族
3. 友人・知人	4. 職場の同僚
5. (学校・幼稚園・保育園などの)先生	6. (市役所などの)行政・相談窓口
7. (病院やカウンセラーなどの)専門家	8. インターネット・書籍
9. 情報を得る人も方法もわからない	10. その他()

☆高崎市が行っている子育て支援事業について伺います。

【問9】あなたは、高崎市が行っている子育てを支援する事業を知っていますか。

1. 知っている 2. 知らない ⇒【問13】へ

●知っていると答えた方に伺います。

【問10】どのような子育て支援事業に参加したことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

また、実施された会場がわかれば、下の{ A ~ I }の中から選んで、記入してください。

事業の種類・名称	実施された会場
1. 子育て支援のための講演会	
2. 子ども向けの体験教室(ものづくりや学習など)	
3. 親子向けの体験教室(ダンス・手遊び・歌など)	
4. 子ども映画会	
5. 読み聞かせ	
6. フェスティバルやおまつり	
7. 子育てサロンやサークルなど	
8. その他(例えば:)	
9. 知っているが参加したことはない(その理由:)	

《実施された会場》 { A 学校 B 幼稚園 C 保育園 D 公民館 E 図書館 F 美術館・博物館等
G 児童館・児童センター H 保健センター I その他 }

【問 11】あなたは、子育て支援事業の情報を、どのように入手していますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 広報高崎	2. 子育てハンドブック
3. 暮らしのガイド	4. ちいぎしんぶん
5. 地域情報誌	6. ポスター
7. チラシ	8. 友人、知人からの口コミ
9. 子育てサークル(グループ)の人から	10. 市のホームページ、まなびネットたかさき
11. パソコンや携帯でインターネット検索	12. 電話での問い合わせ
13. その他()	

【問 12】得た情報を元に、参加するためにあなたが重要視することはどんなことですか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 開催時間や曜日	2. 開催場所までにかかる時間
3. チラシやメディアによる評判や詳細情報	4. 口コミなどによる評判や詳細情報
5. 一緒に参加する仲間	6. 家族の理解・協力
7. 参加費の有無	8. 託児の有無
9. その他()	

【問 13】あなたが、参加しやすい時間帯と曜日を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

	午 前	午 後	夜 間
平 日	1	2	3
土曜日	4	5	6
日曜日	7	8	9

【問 14】あなたが、参加できる距離を教えてください。(あてはまるもの1つだけに○)

1. 徒歩・自転車で行ける範囲の距離	2. 車で15分以内の距離
3. 車で30分以内の距離	4. 車で1時間以内の距離
5. その他()	

【問 15】あなたが、最も参加しやすい事業の形態を教えてください。(あてはまるもの1つだけに○)

1. 1年間通して、定期的開催	2. 4~6ヶ月間に、月1回程度の開催
3. 1~3ヶ月間に、集中して開催	4. 1回ずつ単発で開催
5. その他()	

平成23年度家庭教育支援事業実施回数集計表

	事業数	対 象				
		乳児(3歳未満)と保護者	幼児(3歳以上6歳未満)と保護者	小学生と保護者	中学生以上	
図書館	243	234	5	4		
	中央	152	147	5		
			☆絵本の読書相談10 ☆映画会2、読み聞かせ	☆民話の語り5		
	箕郷	12	12			
			☆クリスマス会1、読み聞かせ			
	群馬	36	34		2	
			☆読み聞かせ	☆読書感想文、自由研究		
	新町	16	14		2	
			☆クリスマス会1、読み聞かせ	☆牛乳パックのびっくり絵本製作		
	榛名	15	15			
		☆映画会2、クリスマス会1、読み聞かせ				
吉井	12	12				
		☆お楽しみ会1、読み聞かせ				
公民館	782	334	91	315	42	
	中央	38		9	29	
			☆働くパパの育メン講座3 ☆のびのび子育てママ講座6		☆孫育て講座5 ☆民話かたりべ研修5 ☆図書ボラ養成講座19	
地区	744	334	76	315	13	
		☆ノーバディーズパーフェクトプログラム(国府) ☆わらべうた(城址、浜尻) ☆美術館へ行こう(浜尻) ☆ベビーダンス(箕郷) ☆親子ふれあい教室 ☆読み聞かせ ☆子育てサロン	☆ママのおしゃべりタイム(堤ヶ岡) ☆英語、パソコン(堤ヶ岡) ☆児童館共催事業(中川) ☆リトミック、リズム体操等	☆稲作り教室(新高尾) ☆第二土曜講座(矢中) ☆陸上競技(吉井) ☆獅子舞教室(乗附) ☆天体観測(六郷) ☆おもしろ科学教室 ☆映画会、クリスマス会 ☆夏休み、冬休みの課題講座等	☆コーチング(塚沢) ☆ご褒美講座(タイ式ヨガ・堤ヶ岡) ☆家庭教育問題解決セミナー等	
教育センター	3			3		
			☆子ども理解講座 (小3,4/小5,6/中1,2の保護者向け)			
青少年課	3			3		
			☆初心者親子キャンプ、お菓子作り等			
社会教育課	112	24	7	64	17	
		☆子育て講座 (ベビーダンス、リトミック、子育て相談等)	☆箕郷子育て講座(リトミック)4 ☆幼児期子育て講座(保護者向け講演)3	☆巡回子ども映画会5 ☆就学児子育て講座59	☆中高生の子育て体験講座9 ☆子育て支援スキルアップ講座7	

平成23年度家庭教育支援事業実施回数集計表

	事業数	対 象			
		乳児(3歳未満)と保護者	幼児(3歳以上6歳未満)と保護者	小学生と保護者	中学生以上
こども家庭課	798	560	65	173	
菅谷児童館		125 ☆子育てママのエクササイズ ☆乳幼児のためのEnglish等	2 ☆親子クッキング ☆親子ピクス	17 ☆季節の行事・工作 ☆避難訓練等	
井野児童館		31 ☆おもちゃの図書館 ☆手あそび、体操、読み聞かせ等		5 ☆フィンガーペイント ☆工作(野菜ロケット)等	
豊岡児童館		26 ☆おもちゃの図書館 ☆おはなし広場等	2 ☆映画会2	3 ☆クッキング1 ☆映画会2	
倉賀野児童館		45 ☆おもちゃの図書館 ☆レッツイングリッシュ等		27 ☆地域交流まつり ☆移動児童館(倉賀野小で読み聞かせ)等	
児童センター		239 ☆アロマテラピー講座 ☆英語で読み聞かせ ☆リミック等		43 ☆ヒップホップ ☆パソコン、英語 ☆卓球、囲碁等	
箕郷児童センター いずみ		94 ☆季節の製作 ☆ママのティータイム ☆読み聞かせ等	61 ☆ロッククライミング ☆リズム遊び等	78 ☆ロッククライミング ☆季節の行事等	
こども発達支援センター	8		8 ☆ペアレントトレーニング6 ☆すまいる子育て講座2		
障害福祉課	15				15 ☆ひきこもりを支える家族の集い12 ☆大人の発達障害講演3
社会福祉協議会	65	63			2
榛名支所	42	42 ☆お楽しみ会(リズム体操、手遊び、工作等)13 ☆子育て講座(リミック、ふれあい遊び等)17 ☆子育て発達相談6 ☆育児・栄養相談6			
箕郷支所	23	21 ☆親子ふれあいサークル(キッズピクス、おやつ作り等)			2 ☆子育てお役立ち講座(講座、ヨガ)
	2029	1215	176	562	76

《その他健康課主催事業》

- ☆マタニティクラス ☆ [対象]初めてママになる妊婦とその夫
- ☆あかちゃん学級 ☆ [対象]5ヵ月になる子ども(高崎地域は第1子、その他は全員)
- ☆すくすく相談 ☆ [対象]7~8ヵ月になる子ども(高崎地域は第1子、その他は全員)

- [内容]妊娠中の栄養、先輩ママとの交流会、パパの妊婦体験、制度等
- [内容]計測、離乳食の話、育児の話等
- [内容]計測、育児相談、歯科相談、栄養相談等

平成23年度 高崎市社会教育委員名簿

◎第1号委員 (学校教育の関係者)

氏名	推薦団体・職業等
古井戸昌治	高崎市中学校長会 (矢中中学校長)

◎第2号委員 (社会教育の関係者)

氏名	推薦団体・職業等
高橋ハツミ	高崎地区婦人会連合会
高橋いよ子	高崎市PTA連合会
吉田 久茂	高崎市体育協会
高階 勇輔	高崎市文化協会 (高崎郷土史会)

◎第3号委員 (家庭教育の向上に資する活動を行う者)

氏名	推薦団体・職業等
坂井 勉	社会福祉法人フランスコの町 スーパーバイザー

◎第4号委員 (学識経験のある者)

氏名	推薦団体・職業等
片貝喜一郎	市議会総務教育常任委員会委員長
田端 穰	高崎市区長会副会長
片岡 美喜	高崎経済大学准教授
田口 三船	群馬ベンクラブ監事
長谷川順一	新島短期大学非常勤講師
志村 隆雄	東京福祉大学非常勤講師
戸塚 祐子	倉渕地区選出委員 (倉渕読み聞かせの会会長)
中島 洋子	箕郷地区選出委員 (管理学養士)
藤森 昇	群馬地区選出委員 (金古6区囃託員)
佐藤真喜子	新町地区選出委員 (新町サポーター総合コーディネーター)
加藤 安代	榛名地区選出委員 (上室田小学校区児童クラブ運営委員長)
飯塚 清雄	吉井地区選出委員 (元吉井町教育委員長)

◎第5号委員 (公募した市民)

氏名	推薦団体・職業等
関根 均	無職
井澤千代美	主婦

平成24年度 高崎市社会教育委員名簿

◎第1号委員 (学校教育の関係者)

氏名	推薦団体・職業等
古井戸昌治	高崎市中学校長会 (矢中中学校長)

◎第2号委員 (社会教育の関係者)

氏名	推薦団体・職業等
内藤ちよ子	高崎地区婦人会連合会
高橋いよ子	高崎市PTA連合会
吉田 久茂	高崎市体育協会
高階 勇輔	高崎市文化協会 (高崎郷土史会)

◎第3号委員 (家庭教育の向上に資する活動を行う者)

氏名	推薦団体・職業等
坂井 勉	児童養護施設こはるび指導員

◎第4号委員 (学識経験のある者)

氏名	推薦団体・職業等
堀口 順	市議会総務教育常任委員会委員長
田端 穰	高崎市区長会副会長
片岡 美喜	高崎経済大学准教授
田口 三船	群馬ペンクラブ監事
長谷川順一	新島短期大学非常勤講師
志村 隆雄	東京福祉大学非常勤講師
戸塚 祐子	倉淵地区選出委員 (倉淵読み聞かせの会会長)
中島 洋子	箕郷地区選出委員 (管理栄養士)
藤森 昇	群馬地区選出委員 (金古6区囃子員)
佐藤真喜子	新町地区選出委員 (新町サポーター総合コーディネーター)
加藤 安代	榛名地区選出委員 (上室田小学校区児童クラブ運営委員長)
飯塚 清雄	吉井地区選出委員 (元吉井町教育委員長)

◎第5号委員 (公募した市民)

氏名	推薦団体・職業等
関根 均	無職
井澤千代美	主婦